

報告書<概要版>

我が国における青少年のインターネット 利用に係るペアレンタルコントロールの 効果的な啓発に関する調査

2023年7月

総務省

【委託先】 学校法人国際大学

目次

1. 調査概要	3
2. 本調査から得られる示唆	5
3. スマートフォン利用に関するアンケート調査分析	15
4. 学習用端末に関するアンケート調査分析	36
5. 啓発コンテンツの実験的調査	51
6. 保護者インタビュー調査	60

調査概要

1



本調査研究の目的

- 「青少年が安全に安心してインターネットを利用できるようにするための施策に関する基本的な計画（第5次）」における特に留意すべき取組の観点として、次の3点が定められている。①法改正を踏まえたフィルタリング利用率向上のための取組の更なる推進、②青少年のインターネットを適切に活用する能力の向上促進、③ペアレンタルコントロールによる対応の推進。
- 青少年のインターネット利用環境の急速な変化を踏まえると、フィルタリングの利用促進のみならず、青少年がインターネット上のサービスを利用することを前提としたサービス・コンテンツ利用に関する取組を進める必要がある。以上の認識の下、総務省の「新たな課題及び対策」に基づき、総務省からの委託を受けて学校法人国際大学が実施した「令和3年度 我が国における青少年のインターネット利用に係るペアレンタルコントロールに関する調査」の調査結果では、今後の取組の方向性として、(1)青少年トラブルを減らすためには、フィルタリングサービスの導入促進と家庭内ルールの啓発を共に行うこと、(2)低年齢層への啓発をより充実させることへの示唆が示された。
- 以上を踏まえ、本調査においては①ペアレンタルコントロールの取組に関心が無い保護者に対する効果的な啓発コンテンツ及びその伝達方法の検討、②低年齢層の子供（未就学児）を持つ保護者に対する効果的な啓発コンテンツ及びその伝達方法の検討、③①及び②を踏まえた効果的な啓発方法の実証について、文献調査、インタビュー調査、アンケート調査分析、実験的調査、有識者ヒアリングを行う。そして、保護者が子供の成長やICT利用状況に即した適切なペアレンタルコントロールを行うことができるよう、官民の取組の促進に資することを目的とする。
- また本年度は、スマートフォン利用だけでなく、学習用端末利用も調査の対象とする（※）。

本調査研究で明らかにすること

- ① ペアレンタルコントロールの取組に関心が無い保護者に対する効果的な啓発コンテンツ及びその伝達方法の検討
- ② 低年齢層の子供（未就学児）を持つ保護者に対する効果的な啓発コンテンツ及びその伝達方法の検討
- ③ ①及び②を踏まえた効果的な啓発方法の実証

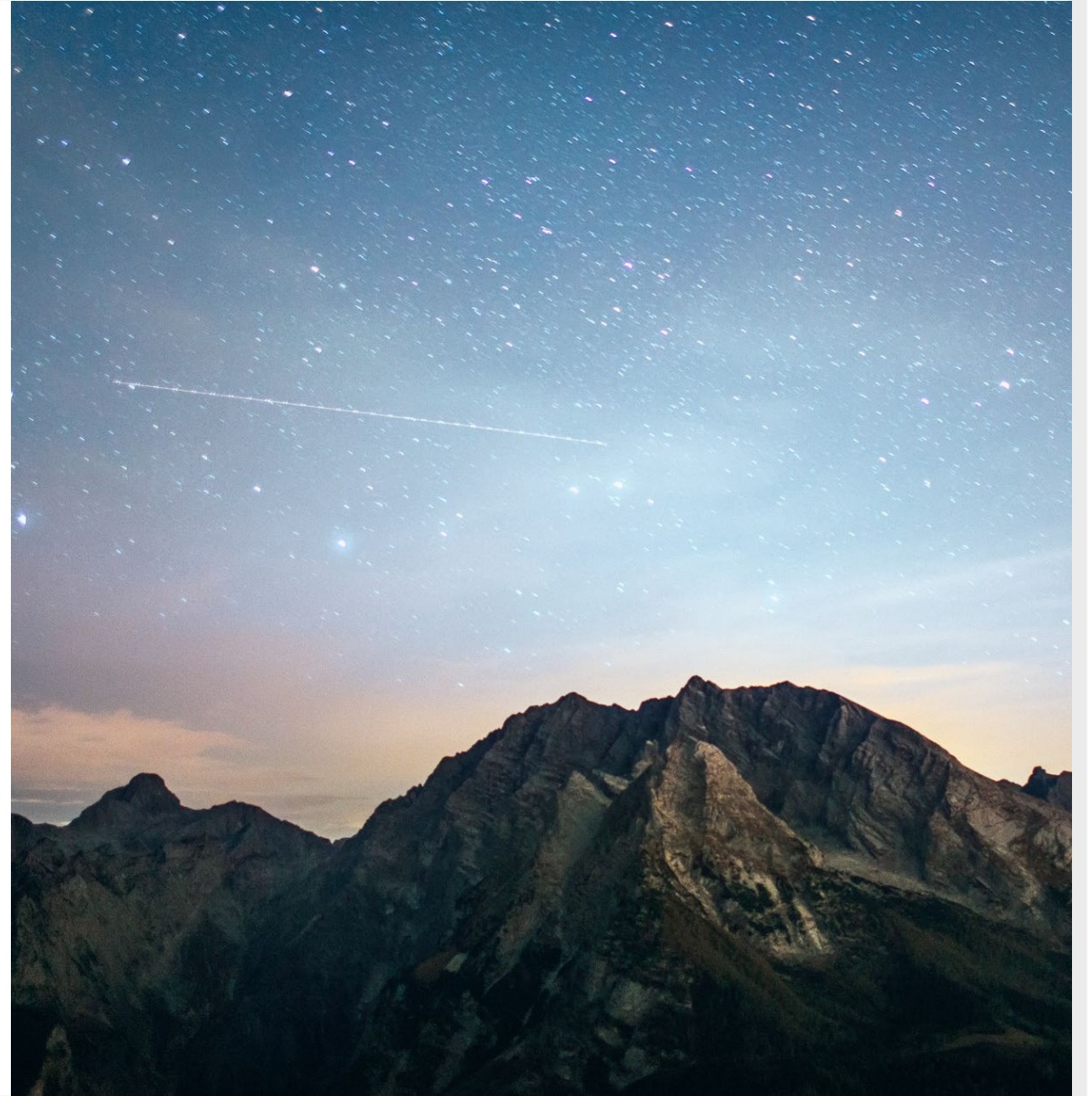
調査研究手法

- ① 文献調査
- ② 21名の青少年保護者に対するインタビュー調査
- ③ 6,275名の青少年保護者を対象としたアンケート調査分析
- ④ 624名の、ペアレンタルコントロールを実施していない青少年保護者を対象とした実験的調査
- ⑤ 有識者会議（全2回）

※本調査における学習用端末に関する分析は、青少年保護者がペアレンタルコントロールにどういった認識・知識を持っているか等に基づいている箇所があります。こうした箇所については、各自治体等の実際の実施状況等とは完全に一致しない場合があります。

本調査から得られる 示唆

2



スマートフォンのペアレンタルコントロールに関する示唆

1. 未就学からペアレンタルコントロールの啓発を推進するとともに、特に中学1年生・高校1年生の保護者を対象に啓発を強化することが効果的

- ・ スマートフォンの利用率が高まる中、未就学児のスマートフォン利用率は既に約25%に達している。また、中学校入学や高校入学など、ライフステージが変わるタイミングで利用率が大幅に増える傾向で、中学1年生の利用率は75.4%、高校1年生での利用率は96.4%である（図表3.2）。
- ・ その一方で、ペアレンタルコントロールについて教えてもらった経験のない保護者は平均して40%程度おり、少なくない。特に未就学では50%を超える（図表3.21、図表3.22）。実際、保護者インタビュー調査でも、ペアレンタルコントロールや機種・ルールの設定等の経験がなく知識を持っていないという思いが強い保護者が多く存在した（ニーズ5）。

⇒ 以上を踏まえ、未就学児の保護者を始めとして広範なペアレンタルコントロールに関する啓発の促進が急務であり、特に、ライフステージが変わるタイミングで実施することが大切である。

2. ペアレンタルコントロールの実施なし・関心なしの保護者の家庭では、青少年が高いリスクにさらされており、重点的な啓発が必要

- ・ ペアレンタルコントロールを実施していない・関心のない保護者は、ペアレンタルコントロールに関するリテラシーが低い傾向が顕著に見られた（図表3.14）。ペアレンタルコントロールに関心を持たなかったり実施したりしていない理由としては、「子どもを信頼している」という回答が多かったが（図表3.7、図表3.12）、実際にはそもそも子どもとのコミュニケーション量が少ない傾向が見られる（図表3.29）。青少年のスマートフォン利用に関するトラブル遭遇経験についても不明割合が多く（ペアレンタルコントロールの実施なし・関心なしの保護者で30.9%）（図表3.25）、遭遇に気づいても特に対応しない割合が高い（ペアレンタルコントロールの実施なし・関心なしの保護者で34.8%）（図表3.27）。

⇒ 青少年が極めて高いリスクにさらされているといえ、引き続きペアレンタルコントロールを実施していなかったり、関心のなかったりする保護者に対する啓発を検討・推進していくことが重要である。

スマートフォンのペアレンタルコントロールに関する示唆

3. スマートフォン利用のポジティブ・ネガティブ影響について調査を行い、エビデンスベースで啓発することが必要

- 保護者インタビュー調査では、スマートフォンのメリット・デメリットを教育面・IT面・心理面で、エビデンスベースで把握したいという意見が見られた（ニーズ2）。
- ⇒啓発に当たってはスマートフォン利用のメリット・デメリットについて、教育・IT・心理・社会生活等様々な面から整理して啓発することが望ましいと考えられる。それにあたり、青少年のスマートフォン活用がもたらす様々なポジティブ・ネガティブ影響について調査を実施し、エビデンスを集めることも必要である。

4. 未就学児や年齢の高い青少年であってもスマートフォントラブルに巻き込まれるリスクがあることを啓発することが必要

- 未就学児の保護者はペアレンタルコントロールを実施していない傾向にあり、その理由として、親の見ていない前でのみスマートフォンを利用させていることがある（図表3.9）。しかし実際には、未就学児でも「インターネットの使い過ぎにより、体調や学業に支障をきたしてしまった」（3.3%）、「歩きスマホ・ながらスマホでけがをしたり（させたり）物を壊してしまった」（3.2%）、「ワンクリック詐欺に遭い、意図していない契約による多額の請求が来てしまった」（2.6%）等のトラブルに遭遇している（図表3.23）。
- 有識者会議では、目の届く範囲でやらせていたとしても画面を常に監視できるわけではなく、「目の届く範囲でやらせているからペアレンタルコントロールがいらぬ」というのは言い訳に過ぎないという意見が複数出た。また、未就学児に対して、フィルタリングサービスを導入していない保護者のスマートフォンを使わせるより、いっそのことペアレンタルコントロールをしっかりと専用スマートフォンを使わせて管理を徹底した方がよいのではないかという意見も見られた。
- 高校生の保護者もペアレンタルコントロールを実施していない傾向にあるが、高校生はトラブル遭遇確率が高く、トラブルに遭遇していない確率は最も低い（図表3.24）。
- ⇒以上を踏まえ、未就学児や高校生の保護者が自分事化できるような啓発が必要である。

スマートフォンのペアレンタルコントロールに関する示唆

5. ペアレンタルコントロールの啓発手段としては、インターネット、テレビ・本・パンフレットが有効であり、特に低年齢層には学校や保育園での説明も効果的

- ペアレンタルコントロールについて知る手段として多くの人が期待しているのが、インターネットと、テレビ・本・パンフレットである（図表3.16）。実際、現在実施している人は、それらの手段で知った経験が多い。また、未就学児や小学低学年の保護者に向けた啓発には、それらに追加して学校や保育園での説明が強く求められている（図表3.17、図表3.18）。

⇒ 以上を踏まえ、ペアレンタルコントロールの啓発手段としては、インターネット、テレビ・本・パンフレットを引き続き活用することが望ましい。また、特に低年齢層の保護者向けには、積極的に学校や保育園で青少年のスマートフォン利用に関するセミナーを実施したり、コンテンツを配布したりすることが求められる。そのような場で活用するためのコンテンツや講座の制作も求められる。

6. トラブルごとに有効な対応方法を、エビデンスベースで啓発することが必要

- 実際に起こったトラブルに対しては、「スマートフォンを利用する時のルールを厳しくした」（40.0%）、「一定期間スマートフォンの利用を禁止した」（25.9%）、「フィルタリングサービスを利用するようになった」（17.1%）の3つが多く、かつ、成功する人が多かったため、適切なトラブル対応方法として啓発コンテンツに盛り込むことが推奨される。ただし、「スマートフォンを利用する時のルールを厳しくした」と「一定期間スマートフォンの利用を禁止した」は、実施率と成功率の乖離が大きかった（図表3.26）。
- トラブルの内容によって傾向は大きく異なっていた。例えば、「SNS・メッセージアプリ・ゲームなどでいじめや誹謗中傷を受けた」では、「無視をするように子供に言った」、「学校に相談した」、「周囲の知人に相談した」といった対応で成功した割合が高い。トラブルの内容によって適切な対応方法は異なるといえる（図表3.28）。

⇒ 以上を踏まえ、トラブル内容によって異なる適切な対応方法をエビデンスベースで啓発することが必要である。全体的な傾向としては、ルールの厳格化、スマートフォン利用の一時禁止、フィルタリングサービスが有効なケースが多いが、トラブルによって大きく異なる。また、ルールの厳格化やスマートフォン利用の一時禁止は成功しない場合も多かったため、青少年がルールを守れるような施策の啓発も必要と考えられる。

スマートフォンのペアレンタルコントロールに関する示唆

7. ペアレンタルコントロールを現在実施していない保護者には、実際に起こる青少年のトラブルやその影響、具体的なペアレンタルコントロール手法と効果、コミュニケーションの重要性について、インターネット、テレビ・本・パンフレット、学校や保育園での説明で啓発することが効果的

- 現在ペアレンタルコントロールを全くしてない保護者の中でも、ペアレンタルコントロールに関心のある保護者の79%、関心のない保護者の48.4%は、きっかけがあればペアレンタルコントロールを実施したいと思っていることも分かっている。特に多かったのは「子どもの身体・健康への影響がどの程度あるのかを知ることができる」で、保護者が自分の子供のこととして自分事化して、危機感を抱けるようになることが重要といえる（図表3.15）。
 - 「ルールを子どもが破ってしまった時の適切な対応の仕方を知ることができる」や「それぞれの取り組みをすることで抑えられるトラブルを知ることができる」など、具体的な手法やその効果に関するものも多かった（図表3.15）。実際、保護者インタビュー調査でも、「家庭や子どもに合った設定をするための、基本的に設定すべき機能やルールのガイドラインが欲しい。」（ニーズ1）、「ニュースにならないような身近なトラブル事例を知りたい。具体的な身近な事例のほうが理解しやすく、関心・危機感を持ちやすい。」（ニーズ6）、という意見が見られた。
 - さらに、ペアレンタルコントロールに関心を持たなかったり実施したりしていない理由としては、「子どもを信頼している」という回答が多かったが（図表3.7、図表3.12）、実際にはそもそも子供とのコミュニケーション量が少ない傾向が見られる（図表3.29）。また、青少年がネット上のトラブルに巻き込まれた時に親に相談しないことがあると思う人が少なく、理解が乏しい（図表3.30）。
 - ペアレンタルコントロールについて実施なし・関心なしの保護者は、ペアレンタルコントロールについて知る手段として「学校や保育園・幼稚園等で知ることができる」へのニーズが相対的に高い（図表3.19、図表3.20）。そのような場で強制的に教えられることが、実施も関心もないグループでは有効と考えられる。
- ⇒以上を踏まえ、まず、ペアレンタルコントロールを現在実施していない保護者には、実際に起こる青少年のトラブルやその影響、具体的なペアレンタルコントロール手法とその効果、闇雲に子どもを信頼するのではなくてコミュニケーションすることが重要であることを啓発することが効果的である。また手段としては、インターネット、テレビ・本・パンフレット、学校や保育園での説明と多角的に実施していく。

学習用端末の家庭内でのペアレンタルコントロールに関する示唆

8. 学習用端末の家庭内でのペアレンタルコントロールの啓発を推進することが必要

- 学習用端末についての家庭内でのペアレンタルコントロールを実施していない理由としては、学校が管理・指導すべきだという考えと、そもそも強く制限されておりペアレンタルコントロールをする必要性を感じていないというものがある（図表4.7）。また、学習用端末のフィルタリングサービスについて教えてもらった経験のない保護者が49.4%と、家庭内ルールについて教えてもらった経験のない保護者が47.1%であり、これらの値はスマートフォンよりもかなり高い（図表3.21、図表3.22、図表4.13、図表4.14、図表4.15）。
- しかし実際には、学習用端末でのトラブル（※）として「インターネットの使い過ぎにより、体調や学業に支障をきたしてしまった」（2.9%）、「SNS・メッセージアプリ・ゲームなどでいじめや誹謗中傷を受けた」（1.7%）、「インターネット上でアダルトサイトや薬物・犯罪情報など、不適切な内容を見てしまった」（1.4%）、「歩きながらの学習用端末利用でけがをしたり（させたり）物を壊してしまった」（1.4%）が多く、全体的にスマートフォンよりは低いものの、トラブルは存在していた（図表4.16）。また、特に小学低学年では「インターネットの使い過ぎにより、体調や学業に支障をきたしてしまった」が3.7%で小学高学年と中学よりも高く、2番目に「歩きながらの学習用端末利用でけがをしたり（させたり）物を壊してしまった」（2.4%）が来ているのも特徴的である（図表4.17）。

⇒ 以上を踏まえ、学習用端末でもトラブルが発生していてペアレンタルコントロールが必要であるということや、特にトラブルとしてはインターネットの使い過ぎ、いじめや誹謗中傷を受ける問題、不適切な内容を見ってしまう問題、歩きながらの利用、といった点が多いことを啓発することが求められる。また、小学低学年は特に学習用端末でのトラブルが多いこと、インターネットの使い過ぎと歩きながらの利用の危険性を啓発することも必要である。

※ 本調査における学習用端末に関する分析は、青少年保護者が青少年の学習用端末でのトラブル遭遇状況にどういった認識を持っているかに基づいて実施しており、実際に発生しているトラブル遭遇状況とは完全に一致しない場合がある。

学習用端末の家庭内でのペアレンタルコントロールに関する示唆

9. 学習用端末の家庭内でのペアレンタルコントロールについて、学校での説明をより拡充すると同時に、保護者の相談に応える機会もさらに設定することが必要

- 家庭内でのペアレンタルコントロールについて知りたい手段としては、「端末配布時に、学校からの直接説明・保護者宛のプリントなどで知ることができる」が約36%でトップであった（図表4.10）。また、ペアレンタルコントロールに関心を持ったきっかけとして、「端末配布時に、学校から直接説明・保護者宛のプリントなどで説明を受けたから」が約24%でやはりトップで（図表4.3）、現在ペアレンタルコントロールに関心のない保護者が関心を持ちそうなきっかけとしても「端末配布時に、学校から直接説明・保護者宛のプリントなどで説明を受けたら」が約20%で最多であった（図表4.5）。ペアレンタルコントロールをしている理由のテキスト分析でも、学校からの呼びかけとの回答が多かった（図表4.6）。さらに、現在ペアレンタルコントロールを全くしてない保護者でも、関心のある保護者の81.6%と関心のない保護者の58.1%が、何かきっかけがあればペアレンタルコントロールをしようと思うと回答している（図表4.9）。
 - しかしその一方で、家庭内でのペアレンタルコントロールについて「端末配布時に、学校から直接説明・保護者宛のプリントなどで教えてもらった」はトップであるものの約25%しかおらず、「端末配布時以外に、学校の保護者会・PTAの会合・講演会などで教えてもらった」は約14%であった（図表4.13）。
 - 有識者会議では、入学説明会、配布時、配布に伴う全体説明会などで学習用端末のペアレンタルコントロールの啓発をすることが重要であるとの指摘があった。
- ⇒ 以上を踏まえ、学校で端末を配布する際や、それ以外の講演会などで、学習用端末で起こりうるトラブルや家庭内でのペアレンタルコントロールについて、より啓発を広げていく必要がある。また、保護者の相談に応える機会もより増やし、学校に相談することでトラブルを解決するような場面を増やすことも大切である。

学習用端末の家庭内でのペアレンタルコントロールに関する示唆

10. 学習用端末の家庭内でのペアレンタルコントロールの啓発資料として、インターネットコンテンツを拡充することが必要

- 学習用端末の家庭内でのペアレンタルコントロールについて読んだり教わったりした経験として、インターネットが約14%と、スマートフォンの約25%に比べて低かった（図表3.21、図表3.22、図表4.13）。また特に、ペアレンタルコントロールについて実施なし・関心なしの保護者では、インターネットを通じてフィルタリングサービスに関する情報を得た経験が1.3%、家庭内ルールに関する情報を得た経験が1.5%と、著しく低かった（図表4.14、図表4.15）。これらの背景には、学習用端末の家庭内でのペアレンタルコントロールについてはインターネット上にコンテンツが少なく、よく調べないと学ぶことができないことがあると考えられる。

⇒ 以上を踏まえ、学習用端末の家庭内でのペアレンタルコントロールやトラブル事例についても啓発資料を作成し、インターネットのアクセスしやすい場所で公開することが求められる。

11. 学習用端末の家庭内でのペアレンタルコントロール啓発に当たっては、適切な学校と保護者の指導の連携・分担の方法、学習用端末のトラブルの子供への影響、ルールを子供が破った時の適切な対応の仕方などを盛り込むことが効果的

- 家庭内でのペアレンタルコントロールをしていない保護者がペアレンタルコントロールをしたいと思うこととしては、「適切な学校と保護者や家庭での指導の連携と分担の方法を知ることができる」、「子どもの学習・成績への影響がどの程度あるのかを知ることができる」、「ルールを子どもが破ってしまった時の適切な対応の仕方を知ることができる」が多かった（図表4.9）。

⇒ 以上を踏まえ、適切な学校と保護者の指導の連携・分担の方法、学習用端末のトラブルの子どもへの影響、ルールを子どもが破った時の適切な対応の仕方などを含めると、現在家庭内でのペアレンタルコントロールをしていない保護者にも効果的と考えられる。

啓発コンテンツ全般に関する示唆

12. 啓発資料は手軽さ・分かりやすさを重視して作成することが効果的

- スマートフォン利用のペアレンタルコントロールに関する啓発資料を作成し、青少年がスマートフォンや学習用端末を利用して、かつ、ペアレンタルコントロールを実施していない保護者に提示したところ、高い啓発効果が確認された。ペアレンタルコントロールに関心のない保護者に対しても、「さらに知りたくなった」、「現在のやり方では不足していると感じた」と回答した人の割合が、スマートフォンでも学習用端末でも5割を超えたり、少なくとも1つに該当した保護者が100%になるなど、大きな意識変化が見られた（図表5.3、図表5.8）。
- さらに、コンテンツへの総合評価は「やや良かった」以上がスマートフォンで86.3%、学習用端末で94.6%と非常に高く（図表5.4、図表5.9）、ペアレンタルコントロールに関心のない人からの支持も高かった77.9%と89.2%となっていて極めて高かった（図表5.5、図表5.10）。
- 特に評価されたのは、内容が分かりやすかった、文章の量が適切で読みやすかったという点であり、今回のデザイン・仕様・内容は十分に啓発に適しているといえる（図表5.6、図表5.11）。

⇒以上を踏まえると、特にペアレンタルコントロールに関心のない層に対しては、内容を充実させることよりも、分かりやすく理解のしやすい文字数・文字の大きさ・イラスト・色合いを重視し、資料を作成することが望ましいといえる。

13. 青少年向けのスマートフォン・学習用端末利用に関する啓発資料を拡充させることが必要

- 作成した啓発資料への意見として、「この内容では青少年と一緒に読むことが難しいため、より分かりやすい青少年向けのコンテンツ（漫画・動画など）が欲しい」というものが複数見られた（図表5.13）。
- 有識者会議では、青少年も親に守ってほしいと思っている子が多く、青少年と保護者が共に学べるコンテンツの作成は意義があるという意見があった。

⇒以上を踏まえ、青少年も分かりやすく学ぶことができ、そこからコミュニケーションを取りながらペアレンタルコントロールを実施できるようなコンテンツを作成することが望ましいといえる。

啓発コンテンツ全般に関する示唆

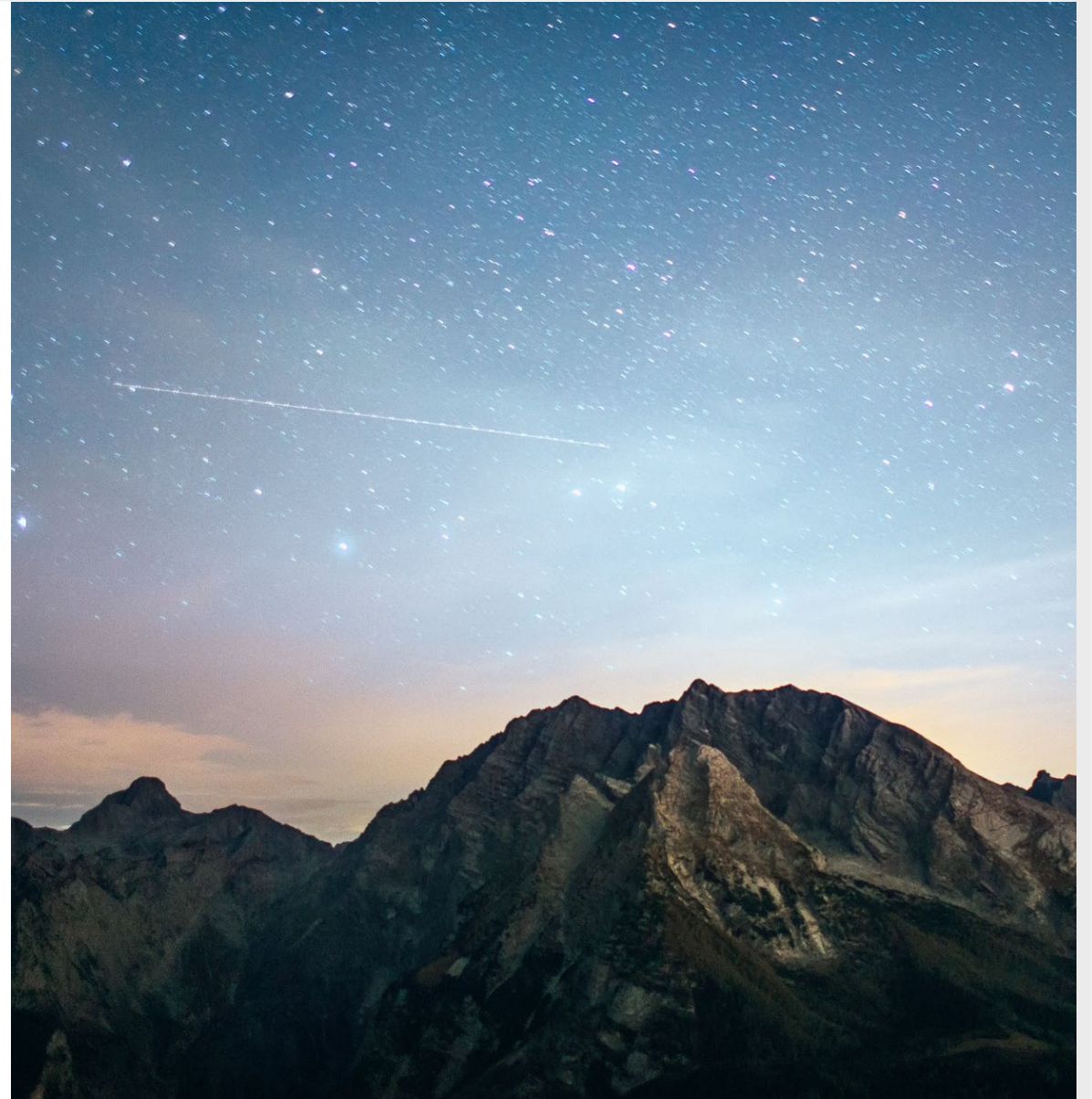
14. ペアレンタルコントロールの実施なし・関心なしの保護者へは啓発コンテンツだけでなく、強制参加の説明会などで丁寧なコミュニケーションが必要

- 作成した啓発資料に対しては、一部「あまり良くなかった」「良くなかった」という評価も見られた（スマートフォンで13.7%、学習用端末で5.5%）（図表5.4、図表5.9）。その理由としては、「知っている内容ばかりだった」「ほしい情報がなかった」というものが多かった（図表5.7、図表5.12、図表5.13）。その一方で、調査対象となったペアレンタルコントロールを実施していない保護者は、ペアレンタルコントロールに関するリテラシーが低く知識が少ない傾向にあることが分かっている（図表3.14）。

⇒以上を踏まえると、「知っている」といってペアレンタルコントロールの必要性を取り合わない、やらない人に対しては、面で広めるコンテンツ以外の方法として、強制参加の説明会などで丁寧なコミュニケーション等の方法での啓発も必要と考えられる。

スマートフォン利用に 関するアンケート調査分析

3

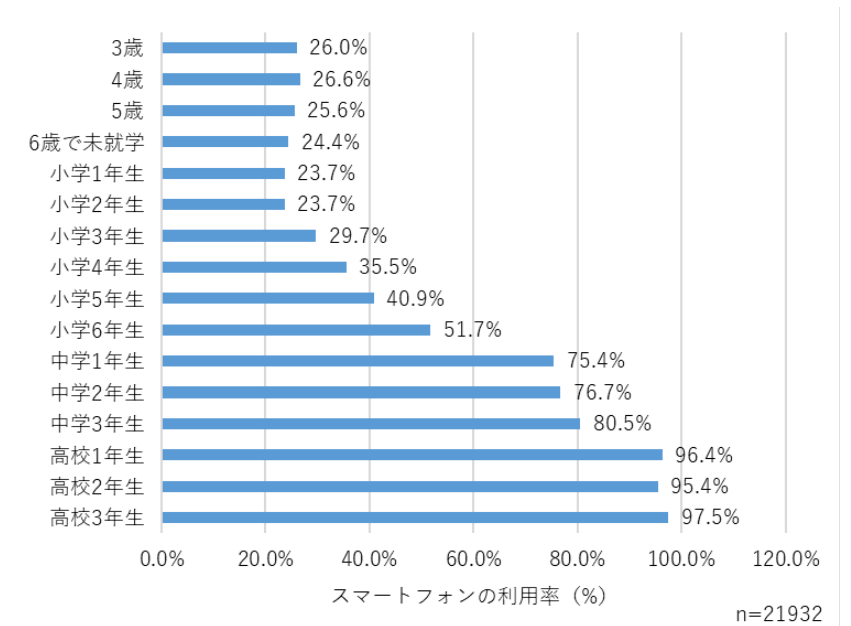


アンケート調査の概要

- 調査時期：2023年1月19日～1月26日
- 調査対象：調査会社の保有する20歳～69歳の登録モニタ。調査はインターネットで行う。条件は、①子供と同居しており、長子の属性が未就学児（3歳～6歳）、小学1年生～高校3年生のいずれかである。②長子がインターネットに接続しているスマートフォンを利用している。ただし、利用とは専用に限らず、兄弟との共同での利用なども含まれる。
- 調査方法：条件に合う保護者6,275名を対象とした。青少年の学年によって均等割り付けを行った（図表3.1）。実際の分析の際は、各学年・性別におけるスマートフォン利用率（図表3.2）によるウェイトバックをした。
- スマートフォン利用率（図表3.2）は、未就学でも4人に1人以上である。また、中学1年生、高校1年生で急に高くなる。

図表3.1 サンプルサイズ

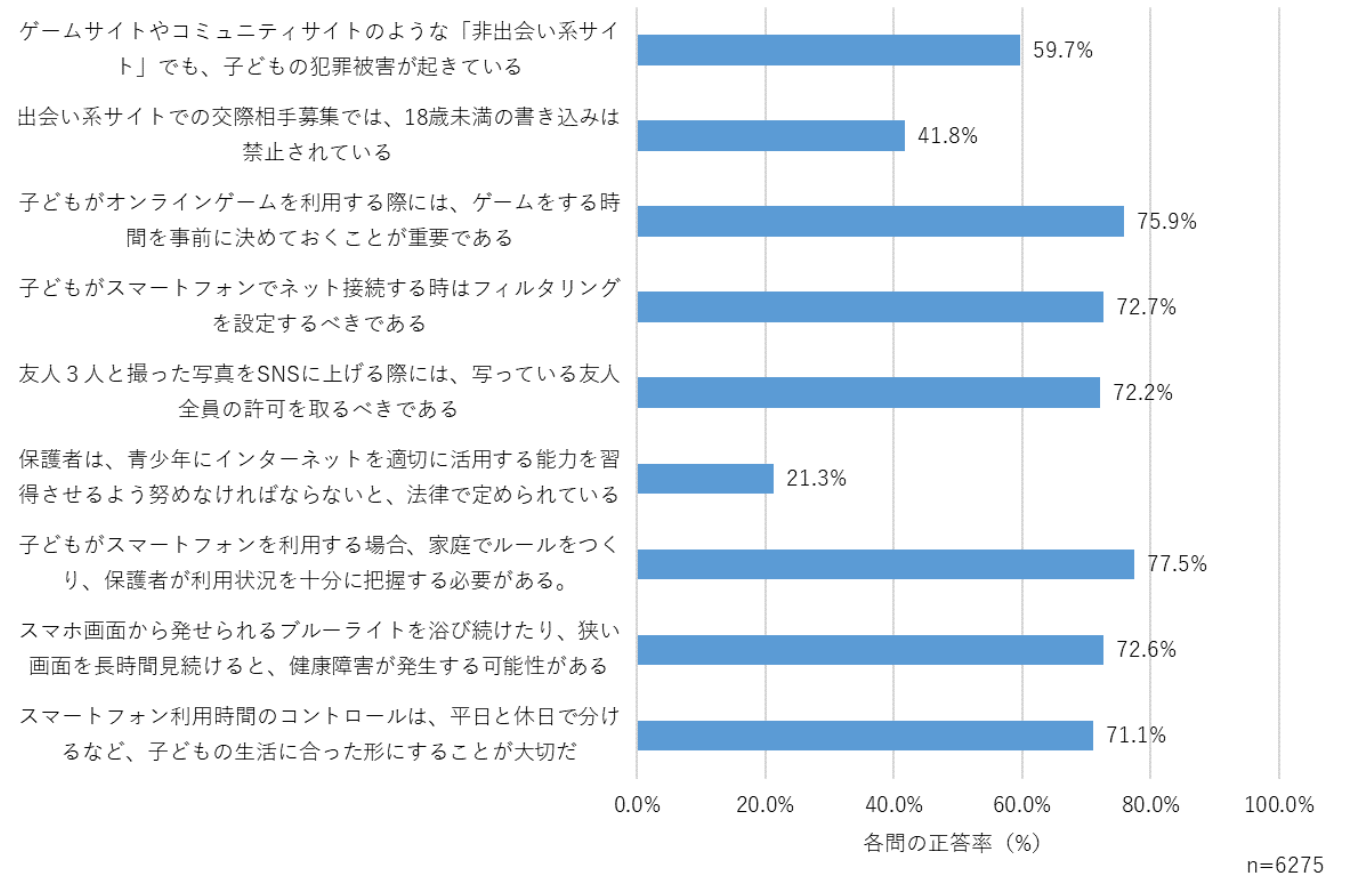
学齢	男	女	合計
3歳	194	190	384
4歳	195	193	388
5歳	194	196	390
6歳で未就学	195	192	387
小学1年生	190	197	387
小学2年生	197	195	392
小学3年生	195	196	391
小学4年生	198	200	398
小学5年生	197	197	394
小学6年生	196	198	394
中学1年生	198	198	396
中学2年生	198	197	395
中学3年生	197	197	394
高校1年生	199	198	397
高校2年生	197	195	392
高校3年生	196	200	396
合計	3136	3139	6275



図表3.2 青少年のスマートフォン利用率

保護者のリテラシー

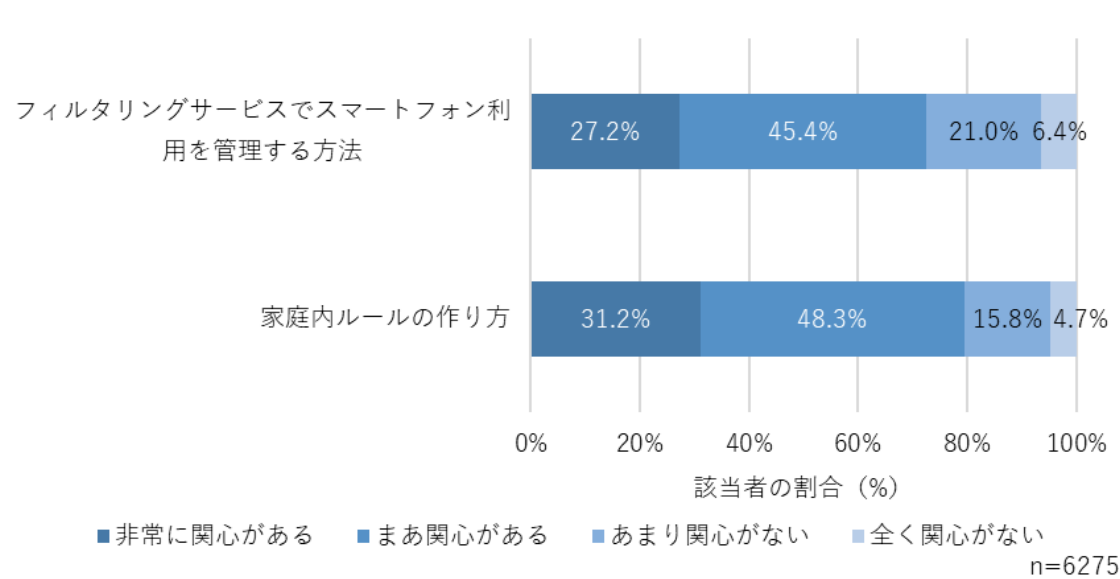
- 保護者の青少年のスマートフォン利用とペアレンタルコントロールに関する知識を調査した。項目は全て正しい内容であるが、それを正しいと選択した人がどの程度いたかを表している。
- 正答率が低いものとして、「出会い系サイトでの交際相手募集では、18歳未満の書き込みは禁止されている」（41.8%）、「保護者は青少年がインターネットを適切に活用する能力を習得させることに努めなければならないことは、法律で定められている」（21.3%）がある。
- とりわけ法律の件は正答率が低く、「青少年が安全に安心してインターネットを利用できる環境の整備等に関する法律」は浸透していないといえる。



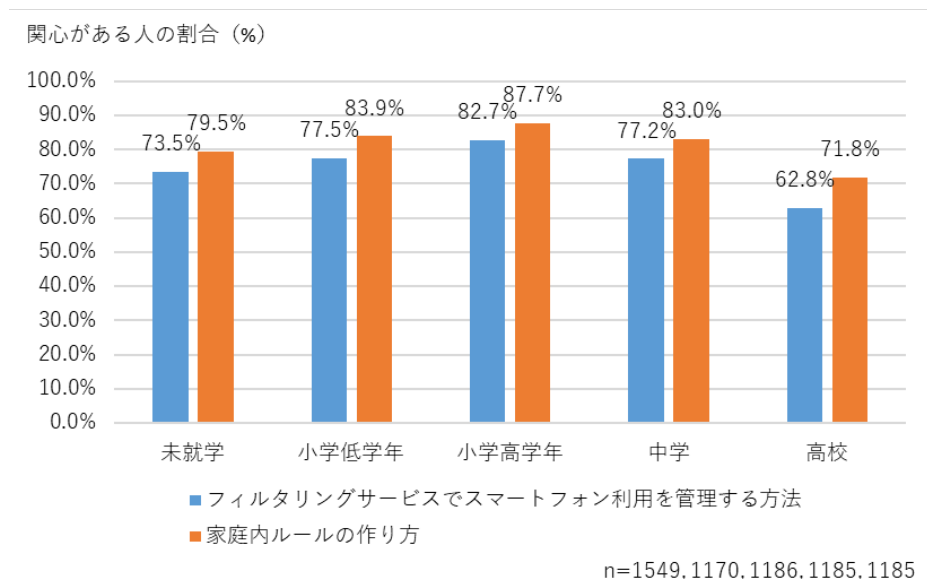
図表3.3 ペアレンタルコントロールに関する保護者の各問正答率

ペアレンタルコントロールに関する保護者の関心

- スマートフォンのペアレンタルコントロールに関心のある人（「非常に関心がある」＋「まあ関心がある」）が多いが、「フィルタリングサービスを使って子どものスマートフォンの利用を管理する方法」では27.4%が、「適切なスマートフォン利用に関する家庭でのルールの作り方」では20.5%が関心がない（「あまり関心がない」＋「全く関心がない」）（図表3.4）。
- 関心のある人の割合を年齢別に見ると、未就学と高校で低い。未就学は親の機器を利用している割合が高いこと、高校は子ども本人に任せている保護者が多いことが理由と考えられる（図表3.5）。



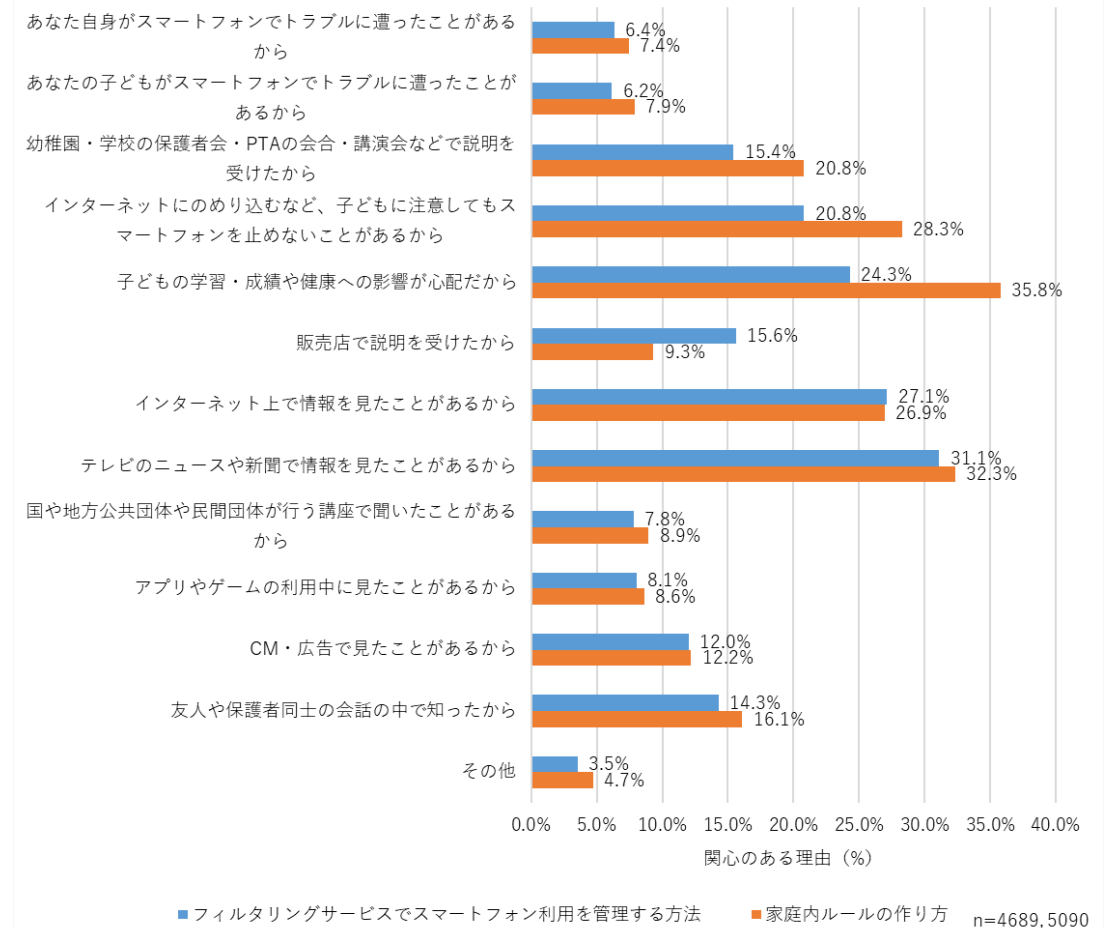
図表3.4 ペアレンタルコントロールに関心のある人



図表3.5 ペアレンタルコントロールに関心のある人（年齢別）

ペアレンタルコントロールに関心を持った理由

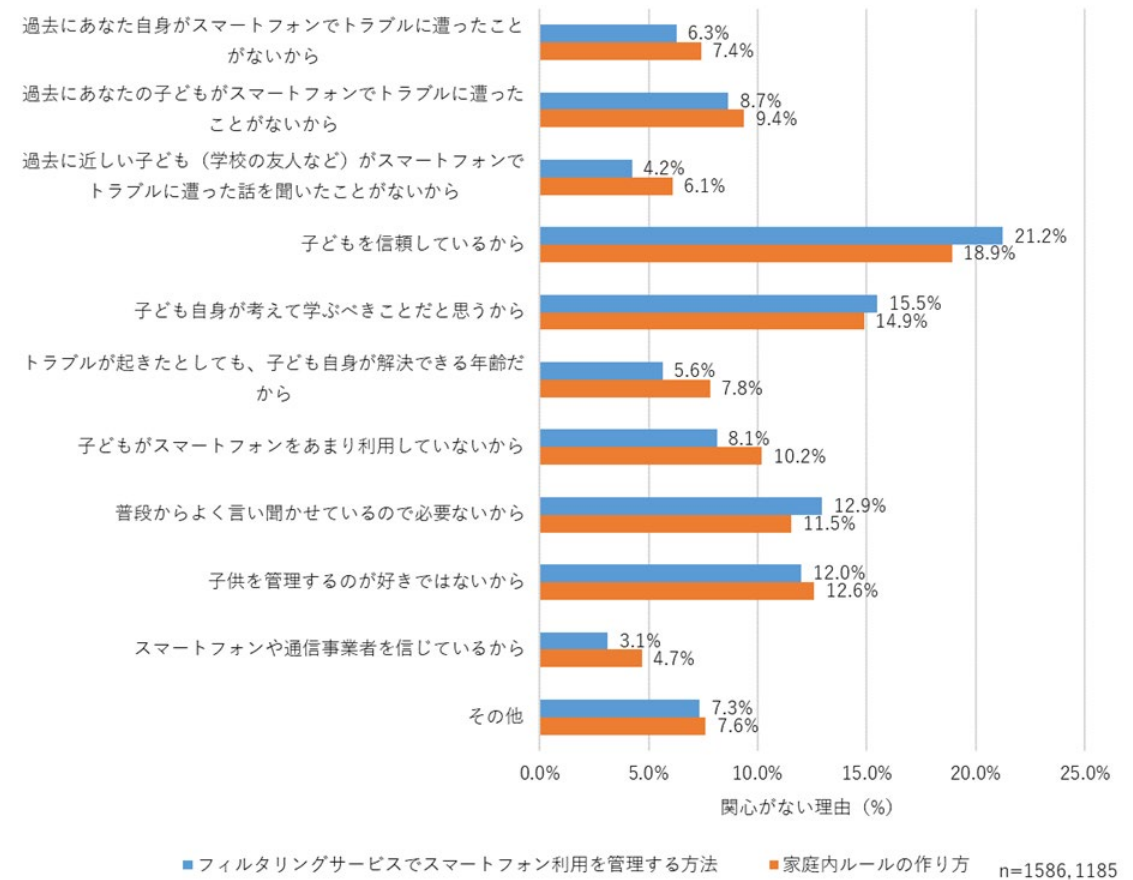
- ペアレンタルコントロールに関心を持った理由として、フィルタリングサービスについては「テレビのニュースや新聞で情報を見たことがあるから」(31.1%)、「インターネット上で情報を見たことがあるから」(27.1%)が多い。
- 家庭内ルールについては、それらの他に、「子どもの学習・成績や健康への影響が心配だから」(35.8%)、「インターネットにのめり込むなど、子どもに注意してもスマートフォンを止めないことがあるから」(28.3%)などの、直接自分の子どもの生活にかかわる部分で関心を持っていることがわかる。



図表3.6 ペアレンタルコントロールに関心を持ったきっかけ

ペアレンタルコントロールに関心を持たない理由

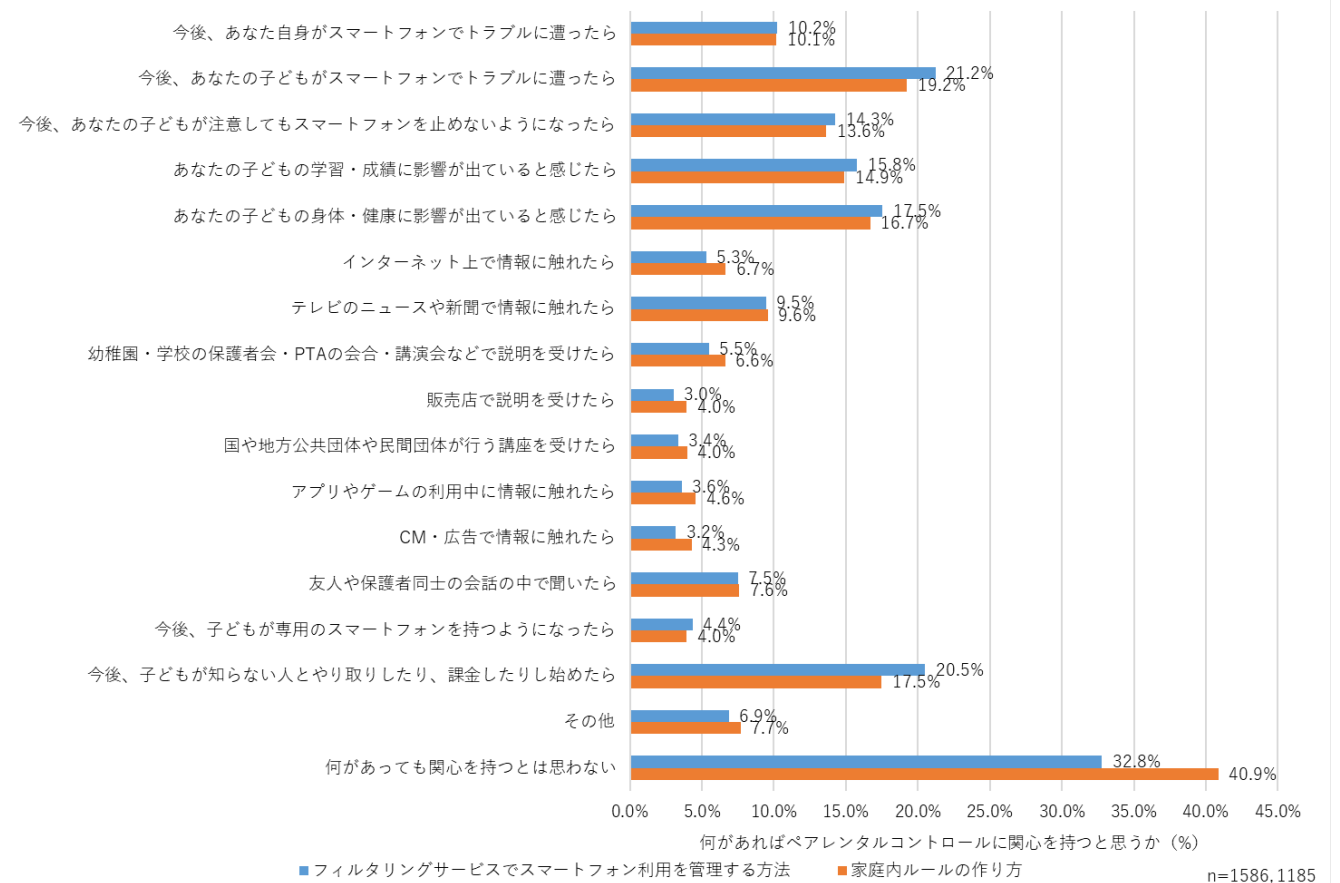
- ペアレンタルコントロールに関心がない理由としては、フィルタリングサービスと家庭内ルールで大きな違いはなく、「子どもを信頼しているから」(21.2%)、「子ども自身が考えて学ぶべきことだと思うから」(15.5%)が多い。
- ただし2021年度調査研究の有識者会議では、「子どもを信頼しているから」というのは子供を放任していることの言い訳に使われているという指摘もあった。



図表3.7 ペアレンタルコントロールに関心がない理由

何があればペアレンタルコントロールに関心を持つか

- ペアレンタルコントロールに関心を持つきっかけとしては、「今後、あなたの子どもがスマートフォンでトラブルに遭ったら」、「あなたの子どもの身体・健康に影響が出ていると感じたら」のような、子どもの身に何かが起こった時というものが多い。
- 一方で、「説明を受けたら」や「情報に触れたら」などの外生的なきっかけは少ない。
- 既に関心を持った人の多くは、インターネットやマスメディアの情報に触れたことをきっかけとして挙げるが、現在関心のない人はそれだけでは動かないことが読み取れる。
- 「何があっても関心を持つとは思わない」という人が最多であり、岩盤層といえる。



図表3.8 何があればペアレンタルコントロールに関心を持つと思うか

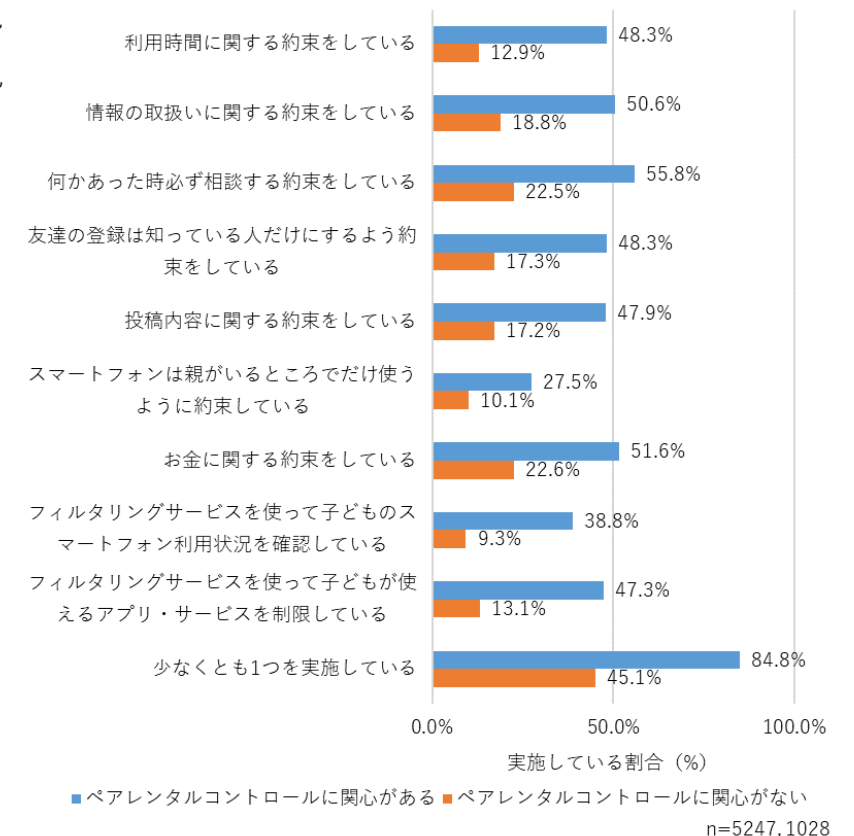
スマートフォンのペアレンタルコントロールの実施状況

- 未就学や高校生ではペアレンタルコントロールを実施しない傾向が見られる。年齢別の特徴として、低年齢層では「利用時間に関する約束」や、「親がいるところだけ使う」などのルールが多い一方で、中学高校では「情報の取扱いに関する約束」や「お金に関する約束」が多い（図表3.9）。
- ペアレンタルコントロールに関心がない人の実施率は極端に低く、「少なくとも1つを実施している」割合は、関心がある人の84.8%に対して関心がない人は45.1%にとどまっている（図表3.10）。

図表3.9 ペアレンタルコントロールの実施状況（年齢別）

ペアレンタルコントロール	未就学	小学		中学	高校
		低学年	高学年		
利用時間に関する約束をしている	44.5%	56.6%	59.9%	51.0%	21.9%
情報の取扱いに関する約束をしている	15.3%	33.9%	52.6%	60.5%	42.1%
何かあった時必ず相談する約束をしている	21.1%	42.6%	60.5%	61.2%	47.7%
友達の登録は知っている人だけにしよう約束をしている	14.8%	37.0%	59.5%	56.4%	35.5%
投稿内容に関する約束をしている	14.1%	31.4%	52.3%	57.0%	38.8%
スマートフォンは親がいるところだけ使うように約束している	55.0%	45.0%	30.6%	21.3%	7.9%
お金に関する約束をしている	17.6%	40.4%	54.0%	57.1%	45.9%
フィルタリングサービスを使って子どものスマートフォン利用状況を確認している	19.1%	37.4%	48.8%	46.3%	20.4%
フィルタリングサービスを使って子どもが使えるアプリ・サービスを制限している	22.3%	46.2%	55.7%	55.3%	28.6%
少なくとも1つを実施している	71.1%	83.2%	86.9%	84.2%	69.2%

n=1549, 1170, 1186, 1185, 1185



図表3.10 ペアレンタルコントロールの実施状況（ペアレンタルコントロール関心別）

ペアレンタルコントロールをしている理由・していない理由

- ペアレンタルコントロールをしている理由のテキスト分析結果では、大きく3つ明らかになった。第一に、保護者としての責任感であり、子供の自己管理に全てを委ねるのではなく、ペアレンタルコントロールの必要性を感じているからである。第二に、学校やニュースによる呼びかけである。第三に、漠然としたトラブルに対する不安であり、子供をトラブルから守りたいということである（図表3.11）。
- 一方、実施していない理由としては次の3つがある。第一に、子供に対する信頼であり、まさか自分の子供に限ってトラブルに巻き込まれることはないだろうと放任している。第二に、年齢であり、3歳や4歳が各種トラブルに巻き込まれることはないと考えている。また高校生については、信頼の他に、青少年が親の管理を嫌がるというものもある。第三に、目の届く範囲での利用に限っているためである（図表3.12）。



図表3.11 ペアレンタルコントロールを実施している理由のワードクラウド

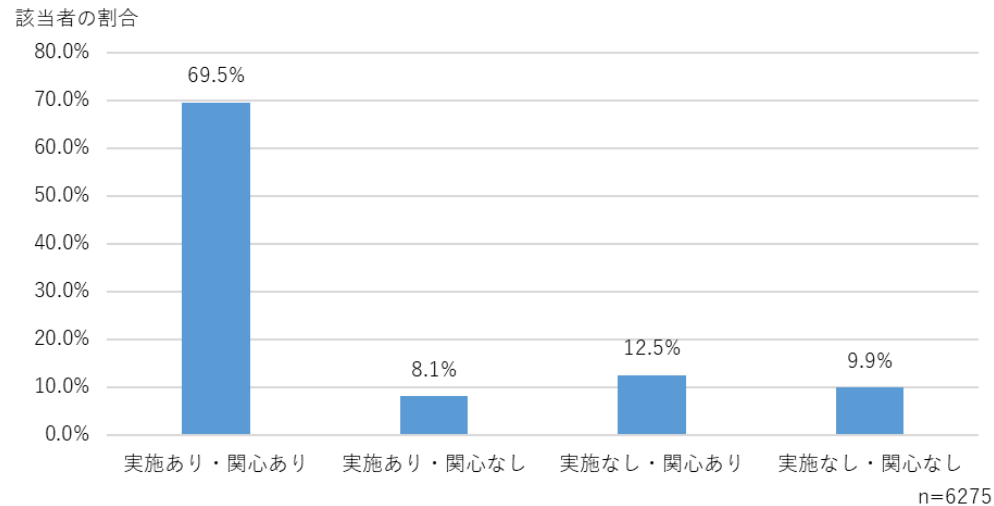


図表3.12 ペアレンタルコントロールを実施していない理由のワードクラウド

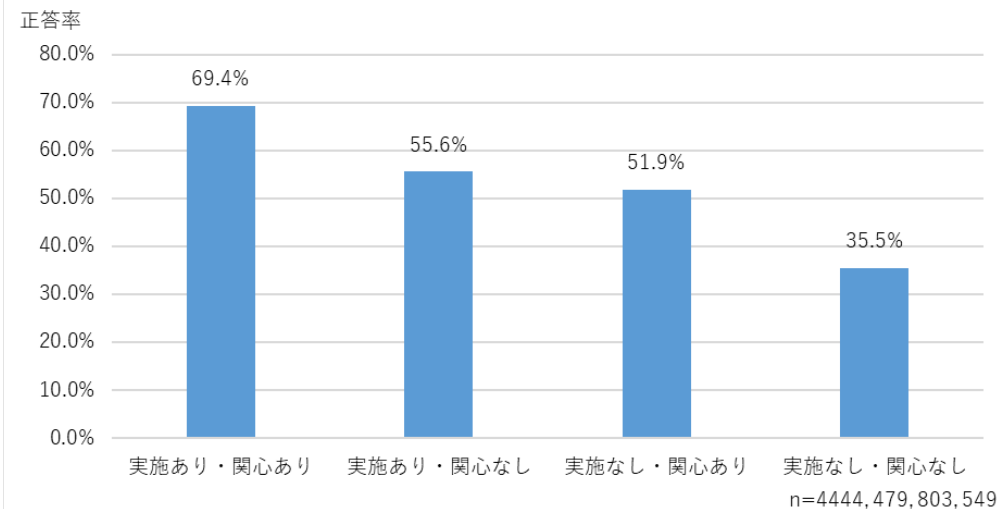
* 実際の分析に当たっては、共起ネットワークの作成及びサンバーストチャートによる共起単語の結びつきの可視化も行った。

保護者の4分類とリテラシー（スマートフォン）

- ペアレンタルコントロールの実施・関心別に保護者を4分類した。「実施あり」は、少なくとも1つ以上のペアレンタルコントロールを実施しており、「関心あり」はフィルタリングサービスか家庭内ルールのどちらか1つ以上に「やや関心あり」以上であったことを示している。実施あり・関心ありが70%弱を占めるものの、該当しない保護者も少なくない。実施なし・関心なしも9.9%存在する（図表3.13）。
- 尚、図表3.3のリテラシー調査の結果を保護者の4分類別に見たところ、ペアレンタルコントロールへの実施・関心別に大きく異なった。とりわけ「実施なし・関心なし」の保護者はリテラシーが低く、知識が不足している（図表3.14）。



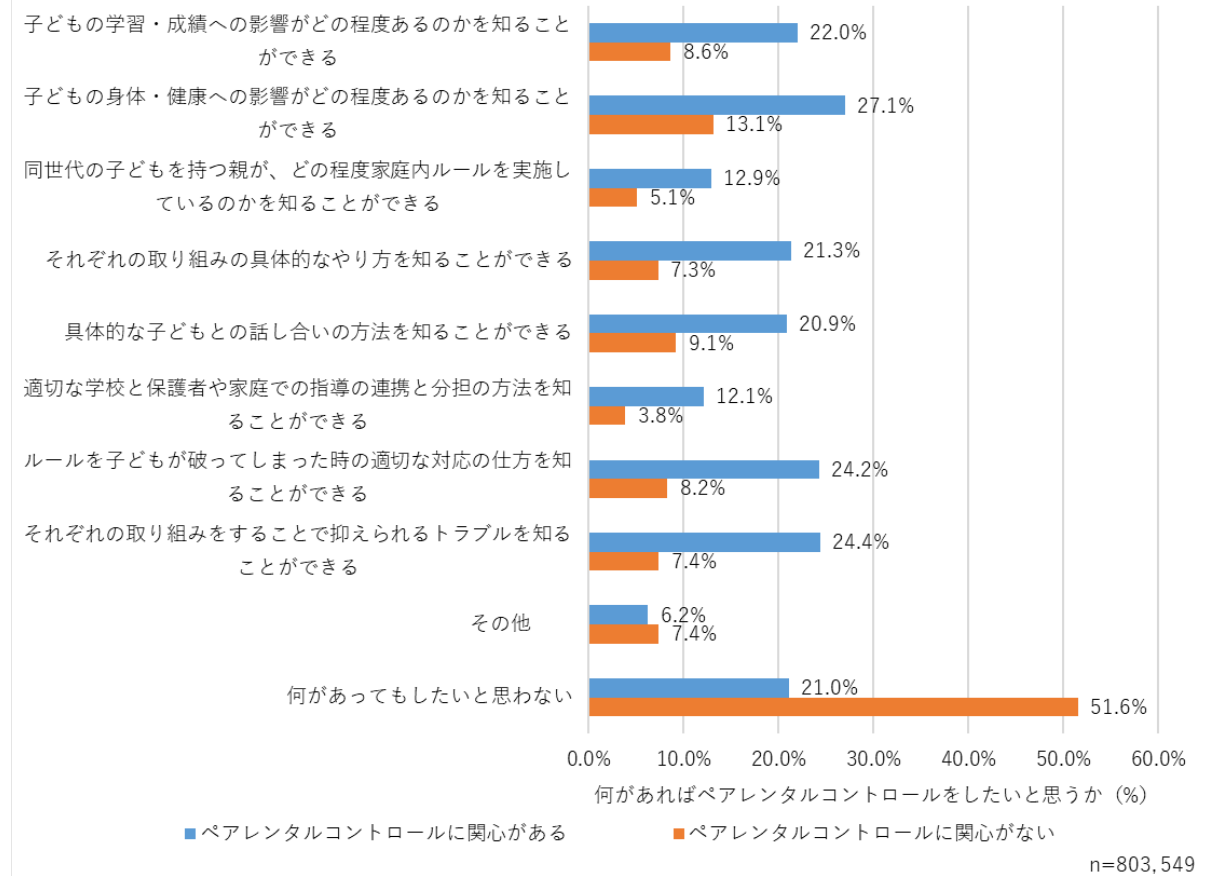
図表3.13 保護者の4分類



図表3.14 ペアレンタルコントロールに関する保護者の各問正答率平均値（保護者4分類別）

何があればペアレンタルコントロールをしたいと思うか

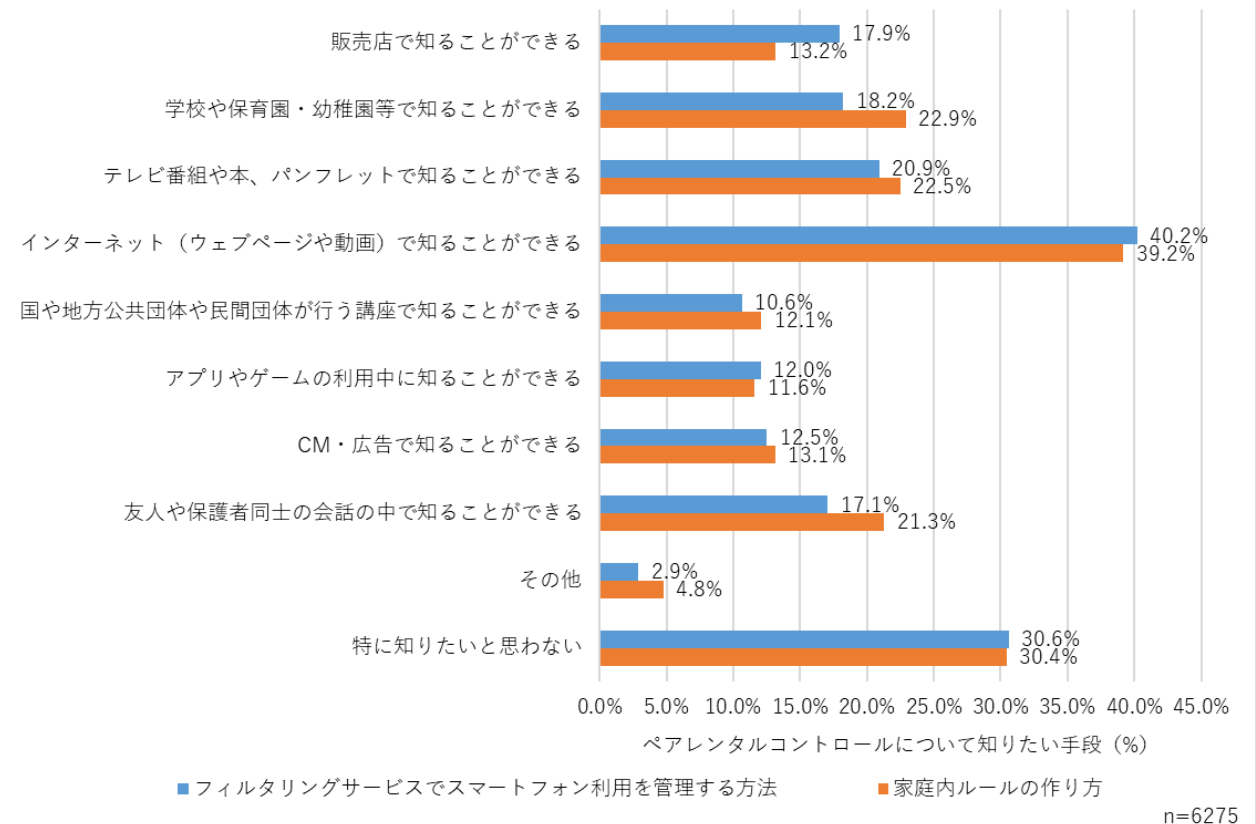
- ペアレンタルコントロール未実施の保護者が、ペアレンタルコントロールをしたいと思うきっかけと考えているものでは「子どもの身体・健康への影響がどの程度あるのかを知ることができる」が最多になっている。保護者が自分の子供のこととして自分事化して、危機感を抱けるようになることが重要といえる。
- 他には「ルールを子どもが破ってしまった時の適切な対応の仕方を知ることができる」や「それぞれの取り組みをすることで抑えられるトラブルを知ることができる」など、具体的な手法やその効果に関するものが高い。
- 関心がない人は「何があってもしたいと思わない」割合が高い（51.6%）。
- ただし、関心がない人に対しても「子どもの身体・健康への影響がどの程度あるのかを知ることができる」はきっかけとして最も多い（13.1%）。



図表3.15 何があればペアレンタルコントロールをしたいと思うか（ペアレンタルコントロール関心別）

どのような手段でペアレンタルコントロールについて知りたいか

- ペアレンタルコントロールを知る手段としては、「インターネット（ウェブページや動画）で知ることができる」や「テレビ番組や本、パンフレットで知ることができる」といった、インターネットやメディアから知ることが多く望まれていることが分かる。
- 一方で、「学校や保育園・幼稚園等で知ることができる」や「友人や保護者同士の会話の中で知ることができる」のように、日常生活の中のコミュニケーションで知ることがも多く望まれている。
- ペアレンタルコントロールについて啓発する際にはこれらのアプローチが有効と考えられる。



図表3.16 ペアレンタルコントロールについて知りたい手段

どのような手段でペアレンタルコントロールについて知りたいか

- ペアレンタルコントロールについて知りたい手段を年齢別に見ると、とりわけ年齢の低い未就学と小学低学年では「学校や保育園・幼稚園等で知ることができる」のニーズが高いことがわかる（図表3.17、図表3.18）。
- 低年齢層の保護者向けには特にそのような機関で啓発することが効果的であると考えられる。

図表3.17 フィルタリングサービスについて知りたい手段（年齢別）

フィルタリングサービスについて何で知りたいか	小学		中学	高校
	未就学	低学年		
販売店で知ることができる	14.7%	15.4%	19.9%	17.0%
学校や保育園・幼稚園等で知ることができる	25.5%	23.3%	18.8%	13.4%
テレビ番組や本、パンフレットで知ることができる	21.8%	22.0%	21.5%	18.7%
インターネット（ウェブページや動画）で知ることができる	38.2%	41.8%	44.8%	36.0%
国や地方公共団体や民間団体が行う講座で知ることができる	13.1%	14.1%	8.9%	9.8%
アプリやゲームの利用中に知ることができる	15.7%	14.9%	13.3%	7.7%
CM・広告で知ることができる	14.0%	15.0%	12.0%	11.1%
友人や保護者同士の会話の中で知ることができる	18.0%	20.3%	17.8%	14.2%
その他	3.4%	3.5%	2.9%	2.3%
特に知りたいと思わない	27.4%	24.4%	27.5%	38.9%

n=1549, 1170, 1186, 1185, 1185

図表3.18 家庭内ルールについて知りたい手段（年齢別）

家庭内ルールについて何で知りたいか	小学		中学	高校
	未就学	低学年		
販売店で知ることができる	11.6%	11.7%	13.3%	13.1%
学校や保育園・幼稚園等で知ることができる	29.6%	28.7%	22.5%	18.6%
テレビ番組や本、パンフレットで知ることができる	24.5%	23.3%	22.4%	21.1%
インターネット（ウェブページや動画）で知ることができる	37.8%	38.5%	42.4%	35.7%
国や地方公共団体や民間団体が行う講座で知ることができる	14.6%	13.5%	9.3%	12.3%
アプリやゲームの利用中に知ることができる	14.9%	13.5%	11.0%	9.4%
CM・広告で知ることができる	14.4%	14.2%	11.9%	12.9%
友人や保護者同士の会話の中で知ることができる	22.5%	23.0%	21.1%	18.1%
その他	5.4%	4.8%	4.5%	4.3%
特に知りたいと思わない	27.8%	25.7%	27.5%	37.4%

n=1549, 1170, 1186, 1185, 1185

どのような手段でペアレンタルコントロールについて知りたいか

- ペアレンタルコントロールについて知りたい手段を保護者4分類別に見ると、実施あり・関心ありだと「特に知りたいと思わない」が20%未満と少ない一方で、実施なし・関心なしでは約78%と非常に多い（図表3.19、図表3.20）。
- 実施なし・関心なしでは「学校や保育園・幼稚園等で知ることができる」のニーズが相対的に高い。そのような場で強制的に教えられることが、実施も関心もないグループでは有効と考えられる（図表3.19、図表3.20）。

図表3.19 フィルタリングサービスについて知りたい手段（保護者4分類別）

フィルタリングサービスについて何で知りたいか	実施あり	実施あり	実施なし	実施なし
	関心あり	関心なし	関心あり	関心なし
販売店で知ることができる	22.3%	9.2%	10.7%	3.3%
学校や保育園・幼稚園等で知ることができる	22.2%	9.6%	12.6%	4.4%
テレビ番組や本、パンフレットで知ることができる	25.9%	11.6%	13.8%	2.4%
インターネット（ウェブページや動画）で知ることができる	49.4%	20.7%	27.8%	7.2%
国や地方公共団体や民間団体が行う講座で知ることができる	13.1%	4.5%	7.0%	2.6%
アプリやゲームの利用中に知ることができる	14.7%	6.9%	8.4%	2.1%
CM・広告で知ることができる	15.1%	8.1%	9.1%	2.6%
友人や保護者同士の会話の中で知ることができる	20.5%	10.6%	12.5%	4.1%
その他	3.0%	3.4%	2.8%	1.8%
特に知りたいと思わない	18.8%	51.8%	45.0%	78.0%

n=4444, 479, 803, 549

図表3.20 家庭内ルールについて知りたい手段（保護者4分類別）

家庭内ルールについて何で知りたいか	実施あり	実施あり	実施なし	実施なし
	関心あり	関心なし	関心あり	関心なし
販売店で知ることができる	15.8%	7.4%	10.0%	3.5%
学校や保育園・幼稚園等で知ることができる	27.8%	12.3%	16.4%	5.6%
テレビ番組や本、パンフレットで知ることができる	27.6%	14.8%	13.8%	4.2%
インターネット（ウェブページや動画）で知ることができる	47.3%	21.7%	28.3%	9.8%
国や地方公共団体や民間団体が行う講座で知ることができる	14.6%	6.7%	8.2%	3.9%
アプリやゲームの利用中に知ることができる	13.6%	6.1%	9.7%	4.4%
CM・広告で知ることができる	15.6%	7.3%	11.0%	3.5%
友人や保護者同士の会話の中で知ることができる	25.3%	13.5%	16.2%	5.5%
その他	4.8%	5.7%	4.9%	3.2%
特に知りたいと思わない	18.9%	51.7%	43.3%	77.8%

n=4444, 479, 803, 549

ペアレンタルコントロールについて教えてもらった経験

- 平均して40%程度の保護者が、ペアレンタルコントロールについて読んだり教えてもらったりした経験がなかった。
- 特に未就学ではその割合が高く、フィルタリングサービスについては52.9%（図表3.21）、家庭内ルールについては51.7%（図表3.22）と、半分以上の保護者が教えてもらった経験がなかった。

図表3.21 フィルタリングサービスについて教えてもらった経験（年齢別）

フィルタリングサービスについて何で教えてもらったか	小学		中学	高校	
	未就学	低学年			
販売店で教えてもらった	6.7%	12.5%	18.3%	21.7%	19.7%
学校や保育園・幼稚園等で教えてもらった	8.2%	11.9%	11.6%	16.0%	15.4%
テレビ番組で見た、或いは、本、パンフレットで読んだ	15.1%	15.3%	14.5%	16.6%	15.2%
インターネット（ウェブページや動画）で見た	20.2%	24.5%	26.8%	28.5%	22.2%
国や地方公共団体や民間団体が行う講座で教えてもらった	5.3%	6.0%	5.2%	4.7%	5.0%
アプリやゲームの利用中に知った	6.4%	6.9%	5.0%	5.3%	3.7%
CM・広告で知った	8.2%	7.3%	5.9%	6.0%	6.7%
友人や保護者同士の会話の中で教えてもらった	11.0%	11.3%	14.2%	12.6%	10.2%
その他	2.9%	2.7%	3.4%	2.7%	2.4%
読んだり教えてもらったりしたことはない	52.9%	43.6%	37.6%	34.4%	40.7%

n=1549, 1170, 1186, 1185, 1185

図表3.22 家庭内ルールについて教えてもらった経験（年齢別）

家庭内ルールについて何で教えてもらったか	小学		中学	高校	
	未就学	低学年			
販売店で教えてもらった	6.4%	7.7%	11.6%	9.5%	9.4%
学校や保育園・幼稚園等で教えてもらった	10.6%	16.4%	18.2%	23.7%	20.5%
テレビ番組で見た、或いは、本、パンフレットで読んだ	16.9%	17.7%	18.5%	20.6%	18.5%
インターネット（ウェブページや動画）で見た	21.1%	22.8%	26.8%	27.5%	22.0%
国や地方公共団体や民間団体が行う講座で教えてもらった	6.8%	7.1%	7.3%	5.8%	6.2%
アプリやゲームの利用中に知った	7.1%	7.6%	7.7%	4.4%	4.5%
CM・広告で知った	9.1%	8.2%	9.0%	5.4%	6.1%
友人や保護者同士の会話の中で教えてもらった	13.5%	14.3%	17.9%	16.0%	13.0%
その他	4.5%	4.0%	5.0%	3.6%	3.7%
読んだり教えてもらったりしたことはない	51.7%	44.6%	39.6%	36.6%	44.2%

n=1549, 1170, 1186, 1185, 1185

青少年のスマートフォンでのトラブル遭遇状況

- トラブルとしては、全体で最も多いのが「インターネットの使い過ぎにより、体調や学業に支障をきたしてしまった」であり、続けて「オンライン（ゲームアプリや漫画アプリなど）で過度な課金（支払い）をしてしまった」が多い。
- 未就学では、「歩きスマホ・ながらスマホでけがをしたり（させたり）物を壊してしまった」（3.2%）、「ワンクリック詐欺に遭い、意図していない契約による多額の請求が来てしまった」（2.6%）が多い。未就学児の歩きスマホは特に危険である。また、フィルタリングサービスのないスマートフォン利用で多額の請求が来ることがある。
- 全体的には、小学高学年以降でトラブル遭遇率が高い。青少年の年齢が高くても安心せず気を付けるよう啓発する必要があると考えられる。

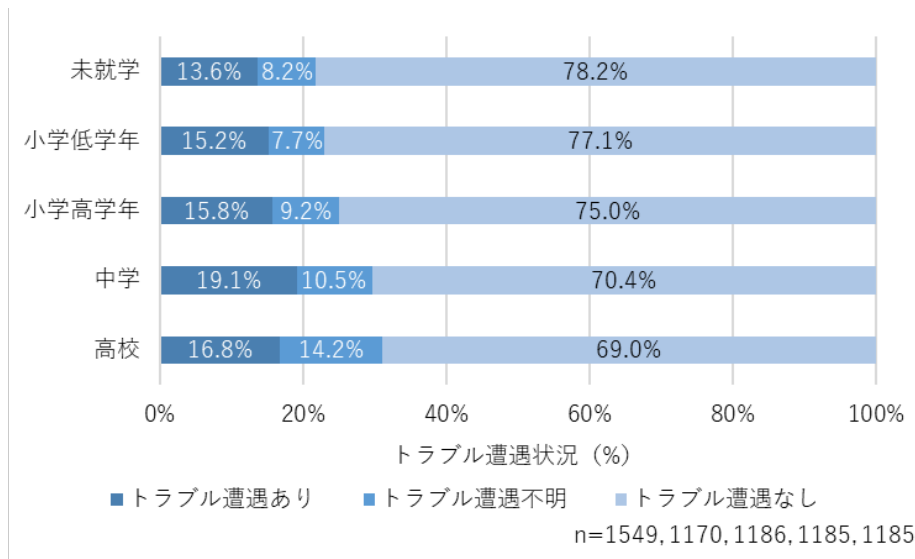
図表3.23 青少年が遭遇したトラブル（年齢別）

遭遇したトラブル	未就学	小学		中学	高校
		低学年	高学年		
SNS・メッセージアプリ・ゲームなどでいじめや誹謗中傷を受けた	1.8%	1.7%	2.7%	3.5%	2.6%
友人・知り合いに性的な自画撮りを送ってしまった	1.5%	1.1%	1.4%	1.1%	0.8%
友人・知り合いから性的な自画撮りを受け取った	1.3%	1.6%	0.8%	1.6%	1.0%
インターネットを通じた知り合いと実際に会って性的暴行を受けた（受けそうになった）	1.3%	1.3%	0.5%	0.9%	0.7%
インターネット上で不適切な内容を見てしまった	2.5%	2.9%	3.3%	3.2%	2.8%
インターネットの使い過ぎにより、体調や学業に支障をきたしてしまった	3.3%	3.7%	5.2%	8.9%	6.7%
フィッシング詐欺などに遭い、自宅の連絡先や学校などの個人情報が漏洩してしまった	1.7%	1.9%	1.2%	1.1%	1.1%
フリマアプリやECサイトで過剰に物を買ってしまった	1.8%	2.2%	1.5%	2.2%	2.0%
オンラインで過度な課金（支払い）をしてしまった	2.3%	3.8%	2.0%	3.5%	3.5%
歩きスマホ・ながらスマホでけがをしたり（させたり）物を壊してしまった	3.2%	2.9%	2.9%	2.1%	1.6%
ワンクリック詐欺に遭い、意図していない契約による多額の請求が来てしまった	2.6%	1.2%	0.9%	1.2%	1.1%
その他	0.5%	0.4%	1.0%	1.7%	1.6%

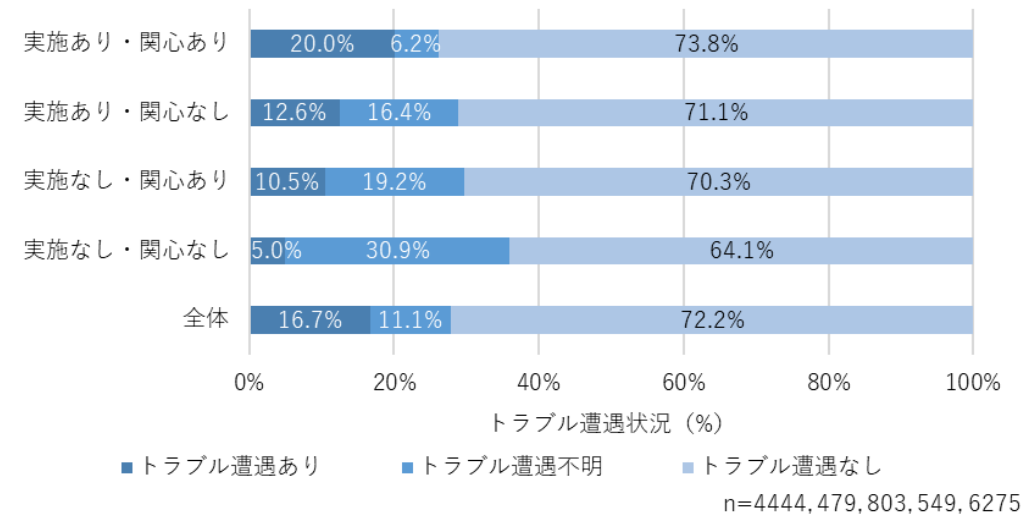
n=1549, 1170, 1186, 1185, 1185

青少年のスマートフォンでのトラブル遭遇状況

- トラブル遭遇状況を年齢別に見ると（図表3.24）、「トラブルの遭遇経験なし」と答える人の割合は年齢が高くなるにつれ減少している。特に高校生では不明が多く（14.2%）、これはペアレンタルコントロール実施率が低いことが要因と考えられる。
- 保護者4分類別に見ると（図表3.25）、実施あり・関心ありではトラブル遭遇経験率こそ高い（20.0%）ものの、経験がない率も高い（73.8%）。一方、その他の場合は不明の割合が高くなり、とりわけ実施なし・関心なしでは極端に高い（30.9%）。また、実施してても関心がない場合にはやはり不明の割合が高い（16.4%）。関心のない状態でペアレンタルコントロールを実施してもトラブル遭遇について正確に把握するのは困難といえる。



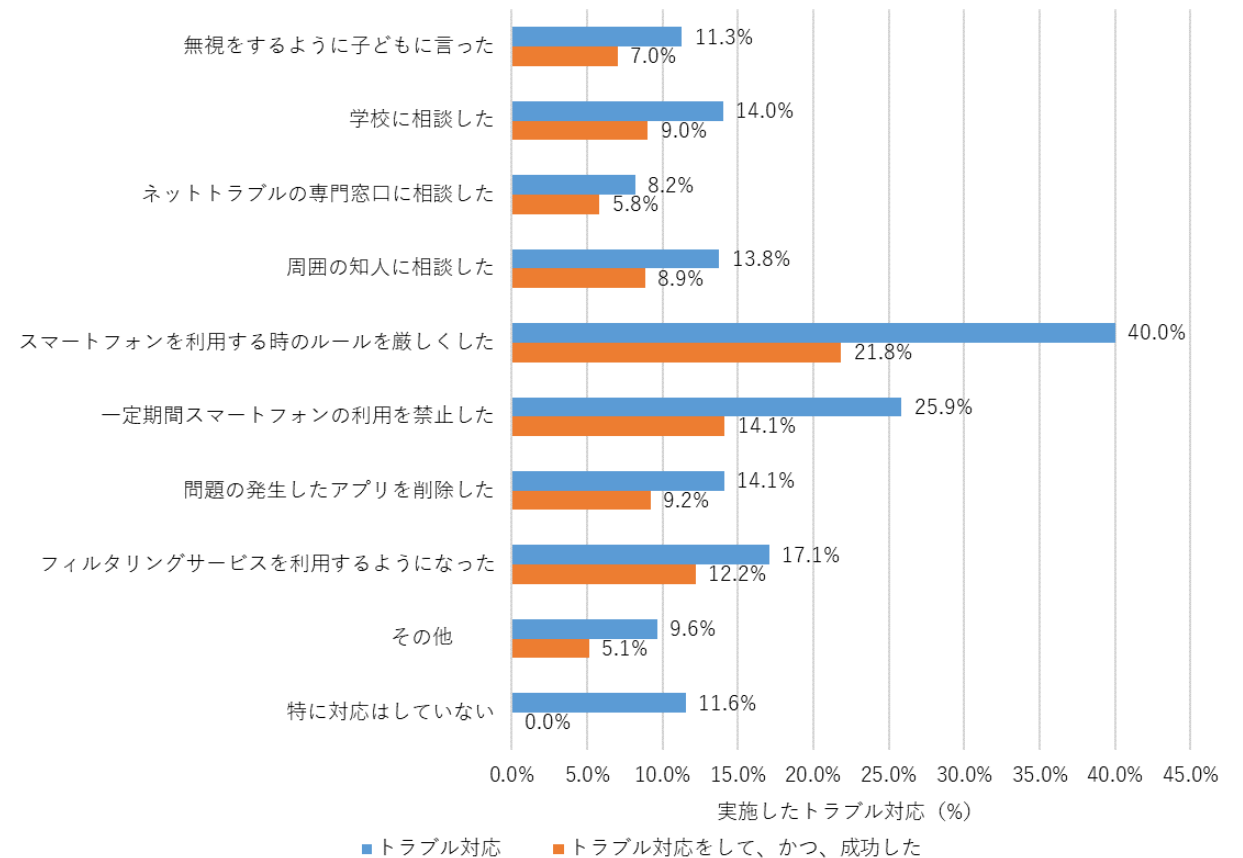
図表3.24 青少年のトラブル遭遇状況（年齢別）



図表3.25 青少年が遭遇したトラブル（保護者4分類別）

スマートフォンのトラブルにどのように対応したか

- トラブル遭遇時の対応としては、「スマートフォンを利用する時のルールを厳しくした」(40.0%)、「一定期間スマートフォンの利用を禁止した」(25.9%)、「フィルタリングサービスを利用するようになった」(17.1%)の3つは実施する人が多く、かつ、成功する人が多いため、適切なトラブル対応方法として啓発コンテンツに盛り込むことが推奨される。
- ただし、「スマートフォンを利用する時のルールを厳しくした」と「一定期間スマートフォンの利用を禁止した」は、実施率と成功率の乖離が大きいため、青少年に適切にルールを守らせる方法の啓発も必要と考えられる。



n=1003

図表3.26 青少年のトラブル遭遇時にどのように対応したか

スマートフォンのトラブルにどのように対応したか

- 保護者4分類別にトラブルへの対応を見ると明らかな傾向が見て取れる。実施あり・関心ありではそもそも対応をする割合が高い（91.1%）が、その他では低く、特に実施なし・関心なしでは特に対応をしていない割合が非常に高い（34.8%）。また、トラブルへの対応も「その他」が多く（23.0%）、具体的な方法として一般的に言われている方法以外の対応をしている。
- これまでの研究結果からも総合すると、ペアレンタルコントロールを実施していない人、とりわけ関心もない保護者は、トラブル遭遇状況を把握しておらず、把握したとしても対応しない傾向にあり、極めてリスクが高い状態であるといえる。

図表3.27 青少年のトラブル遭遇時にどのように対応したか（年齢別）

実施したトラブル対応	実施あり	実施あり	実施なし	実施なし
	関心あり	関心なし	関心あり	関心なし
無視をするように子どもに言った	11.8%	9.5%	7.4%	12.2%
学校に相談した	15.4%	6.7%	7.1%	7.5%
ネットトラブルの専門窓口相談した	8.5%	7.1%	7.4%	4.6%
周囲の知人に相談した	15.4%	6.1%	7.0%	1.4%
スマートフォンを利用する時のルールを厳しくした	43.4%	25.5%	25.3%	11.8%
一定期間スマートフォンの利用を禁止した	28.1%	17.6%	16.4%	5.5%
問題の発生したアプリを削除した	15.4%	7.6%	8.3%	6.3%
フィルタリングサービスを利用するようになった	19.1%	6.8%	7.5%	6.3%
その他	9.0%	19.2%	4.1%	23.0%
特に対応はしていない	8.9%	28.5%	17.5%	34.8%

n=826, 64, 80, 33

スマートフォンのトラブルにどのように対応したか

図表3.28 青少年のトラブル遭遇時にどのように対応したか（トラブル別）

- トラブルに対応して成功した人の割合をトラブル別にみると、「スマートフォンを利用する時のルールを厳しくした」、「一定期間スマートフォンの利用を禁止した」、「フィルタリングサービスを利用するようになった」が全体的に高いのは図表3.26と同様である。
- ただし、トラブルの内容によって大きく異なる。例えば、「SNS・メッセージアプリ・ゲームなどでいじめや誹謗中傷を受けた」では、「無視をするように子供に言った」、「学校に相談した」、「周囲の知人に相談した」といった対応で成功した割合が高い。トラブルの内容によって適切な対応方法は異なるといえる。

遭遇したトラブル	無視	学校に 相談	専門窓 口に相 談	知人に 相談	ルール を厳し く	利用禁 止	アプリ 削除	フィル タリン グサー ビス導 入	その他	特にな し
SNS・メッセージアプリ・ゲームなどでいじめや誹謗中傷を受けた	23.6%	26.9%	10.3%	18.9%	14.9%	10.7%	12.5%	13.7%	4.9%	0.0%
友人・知り合いに性的な自撮りを送ってしまった	9.9%	15.3%	19.8%	24.1%	14.7%	8.2%	4.2%	13.7%	0.0%	0.0%
友人・知り合いから性的な自撮りを受け取った	13.8%	8.7%	0.0%	11.1%	6.3%	4.6%	10.1%	12.3%	6.5%	0.0%
インターネットを通じた知り合いと実際に会って性的暴行を受けた（受けそうになった）	30.1%	15.5%	36.1%	25.5%	32.9%	32.6%	37.2%	21.2%	0.0%	0.0%
インターネット上で不適切な内容を見てしまった	17.3%	5.6%	3.3%	9.4%	22.7%	9.3%	15.0%	23.1%	6.4%	0.0%
インターネットの使い過ぎにより、体調や学業に支障をきたしてしまった	1.0%	6.4%	2.3%	4.4%	20.0%	14.8%	3.6%	7.9%	2.4%	0.0%
フィッシング詐欺などに遭い、自宅の連絡先や学校などの個人情報が漏洩してしまった	10.3%	11.5%	11.2%	22.9%	14.7%	21.5%	16.4%	8.6%	4.8%	0.0%
フリマアプリやECサイトで過剰に物を買ってしまった	4.7%	6.4%	14.5%	17.3%	30.1%	14.7%	11.3%	22.2%	7.7%	0.0%
オンラインで過度な課金（支払い）をした	2.8%	3.5%	5.1%	4.3%	37.7%	20.3%	15.0%	19.7%	4.2%	0.0%
歩きスマホ・ながらスマホでけがをしたり（させたり）物を壊してしまった	2.2%	5.7%	1.5%	6.2%	32.0%	14.3%	2.8%	2.0%	0.8%	0.0%
ワンクリック詐欺に遭い、意図していない契約による多額の請求が来てしまった	12.7%	6.8%	15.1%	8.3%	7.3%	8.7%	7.5%	10.0%	0.0%	0.0%
その他	0.9%	18.4%	0.0%	0.0%	10.4%	5.7%	2.8%	0.0%	27.9%	0.0%

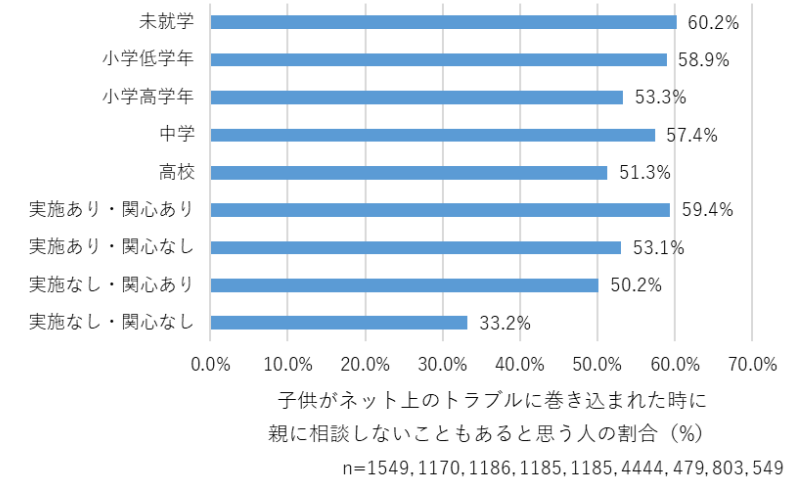
青少年とのコミュニケーション

- 青少年とのコミュニケーション状況について、ペアレンタルコントロールについて実施あり・関心ありの保護者（平均70.1%）に比べて、そうでない保護者は顕著にコミュニケーションが少なく、とりわけ実施なし・関心なしの保護者は平均36.2%と、非常に少ない（図表3.29）。リテラシーが低く、子どもとのコミュニケーションも少ないということで、ここからも青少年が高いリスクにさらされていることが分かる。
- 青少年がネット上のトラブルに巻き込まれた時に親に相談しないことがあると思う人の割合は、実施なし・関心なしで低い（図表3.30）。ここでも青少年を信頼している結果、放任に繋がっているという結果が見える。

図表3.29 青少年とのコミュニケーション状況（保護者4分類別）

子供とのコミュニケーション	実施あり	実施あり	実施なし	実施なし
	関心あり	関心なし	関心あり	関心なし
食事をするときは、子どもと色々なことをよく話す	80.9%	66.4%	68.8%	46.1%
子どもの言葉づかいのことで子どもとよく話す	64.1%	37.8%	49.6%	30.3%
将来や進路について子どもとよく話す	67.5%	55.2%	55.3%	38.6%
スマートフォンや学習用端末の使い方について子どもとよく話す	62.1%	35.6%	45.4%	25.1%
最近、学校や保育園・幼稚園であったことについて子どもとよく話す	79.0%	60.9%	67.5%	46.2%
学習・勉強について子どもとよく話す	75.0%	54.8%	56.1%	36.7%
友達やクラスメイトなど人付き合いについて子どもとよく話す	74.9%	59.3%	62.1%	39.5%
子供から悩みを相談される	57.4%	42.0%	47.3%	27.2%
平均	70.1%	51.5%	56.5%	36.2%

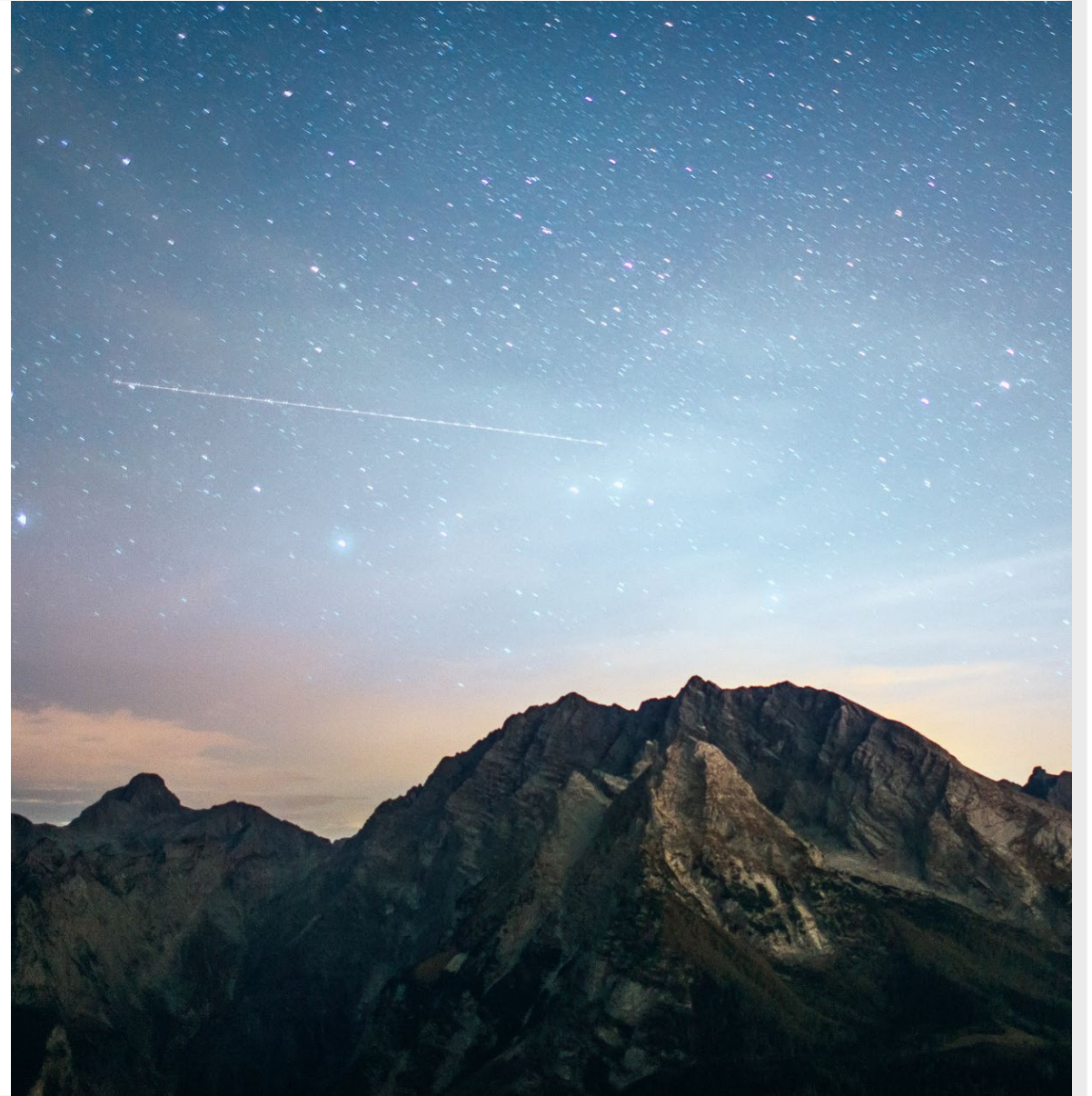
n=4444, 479, 803, 549



図表3.30 青少年がネット上のトラブルに巻き込まれた時に親に相談しないことがあると思うか（年齢別・保護者の4分類別）

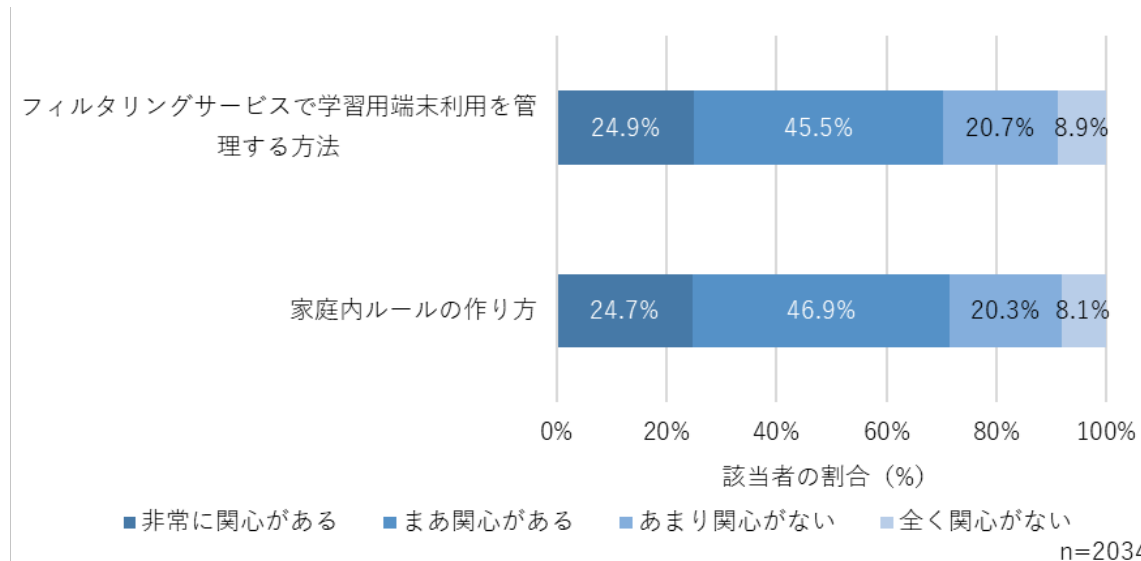
学習用端末に関する アンケート調査分析

4

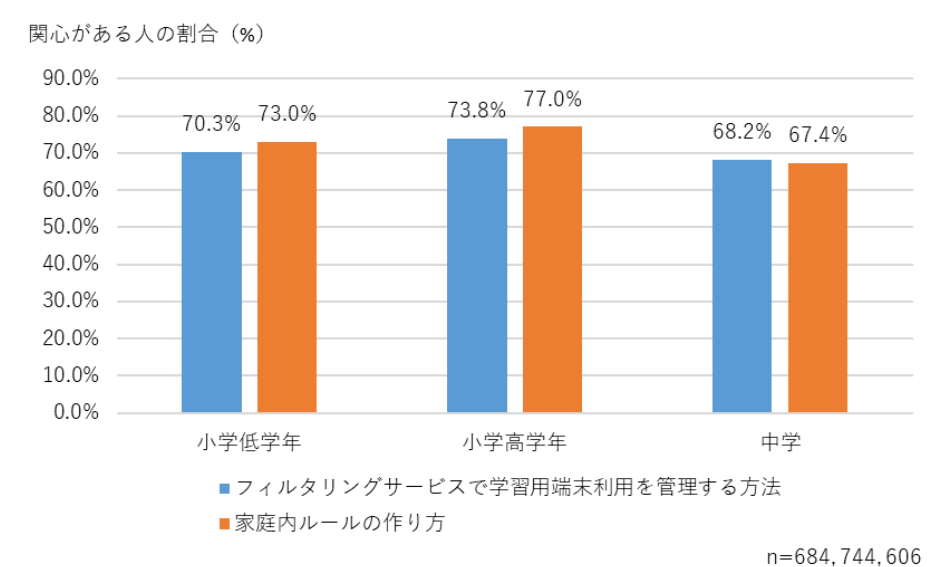


家庭内でのペアレンタルコントロールに関する保護者の関心

- 学習用端末の家庭内でのペアレンタルコントロールに関する保護者の関心を見ると、フィルタリングサービスと家庭内ルールで大きな違いは確認できず、どちらも70%以上の人は「まあ関心がある」以上の回答である。スマートフォンの同調査よりやや低い関心だとわかる（図表4.1）。
- 年齢別に見ると、年齢の最も高い中学生の保護者が最も関心が低くなっている（図表4.2）。



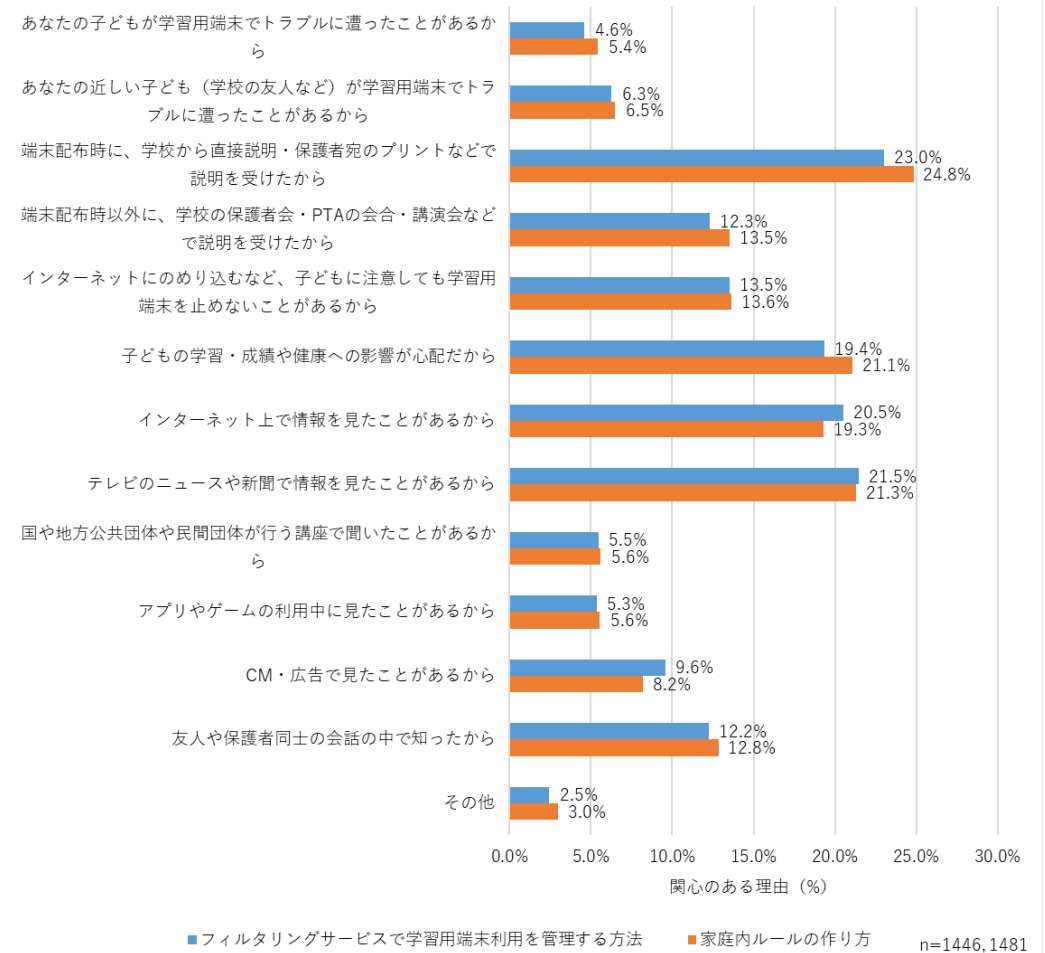
図表4.1 ペアレンタルコントロールに関心のある人



図表4.2 ペアレンタルコントロールに関心のある人（年齢別）

家庭内でのペアレンタルコントロールに関心を持った理由

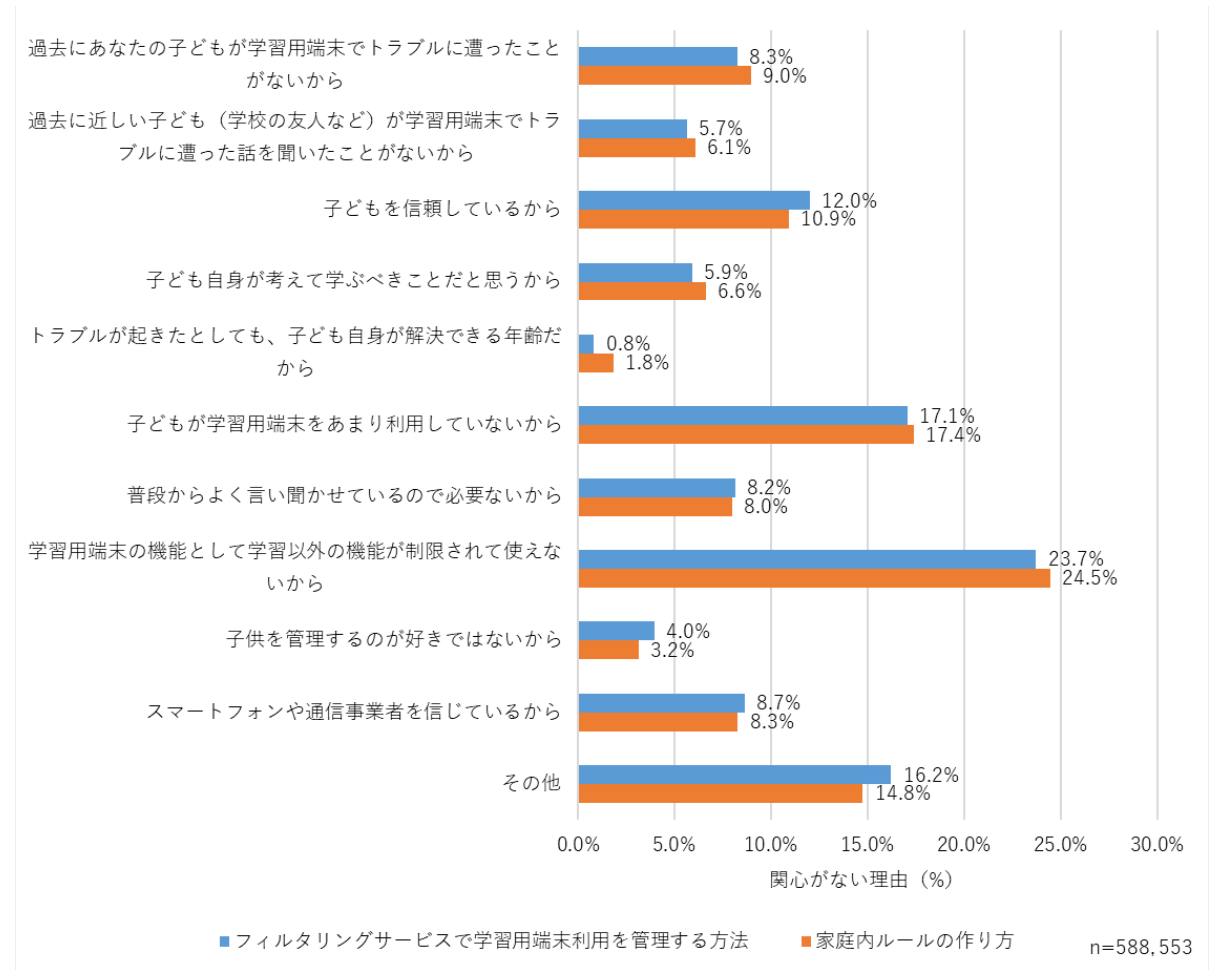
- 学習用端末の家庭内でのペアレンタルコントロールに関心を持ったきっかけとしては、「端末配布時に、学校から直接説明・保護者宛のプリントなどで説明を受けたから」が約24%と最多である。その他、「インターネット上で情報を見たことがあるから」や「テレビのニュースや新聞で情報を見たことがあるから」が高いのはスマートフォンと同じ傾向である。
- 「端末配布時に、学校から直接説明・保護者宛のプリントなどで説明を受けたから」は最多ではあるが、4人に1人以下に過ぎない。端末配布時の保護者に対する説明を確実にするとともに、内容としても保護者によるペアレンタルコントロールという視点で関心をより持ってもらえるような説明も必要と考えられる。



図表4.3 ペアレンタルコントロールに関心を持ったきっかけ

家庭内でのペアレンタルコントロールに関心を持たない理由

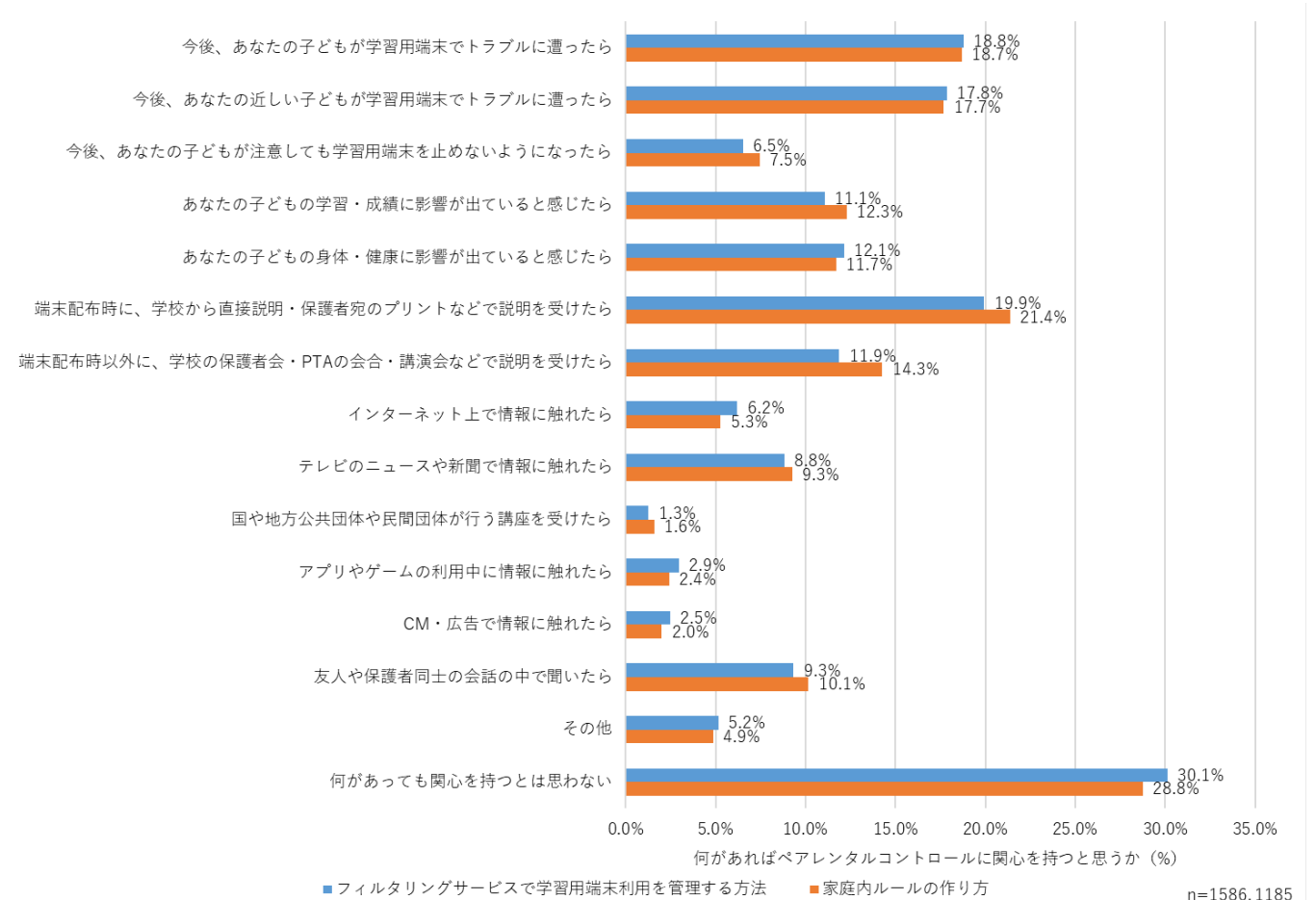
- 学習用端末の家庭内でのペアレンタルコントロールに関心を持たない理由としては、「学習用端末の機能として学習以外の機能が制限されて使えないから」（約24%）や「子どもが学習用端末をあまり利用していないから」（約17%）が多い。
- 3位には「子どもを信頼しているから」がランクインしており、これはスマートフォンでは1位の項目となっている。学習用端末特有の事情を除くと、スマートフォンと同様の傾向といえる。



図表4.4 ペアレンタルコントロールに関心がない理由

何があれば家庭内でのペアレンタルコントロールに関心を持つか

- ペアレンタルコントロール未実施の保護者が、何があれば学習用端末利用に関する家庭内でのペアレンタルコントロールに関心を持つと思うかについては、「何があっても関心を持つと思わない」が最多であり、これはスマートフォンの同調査と同じ結果である。次いで「端末配布時に、学校から直接説明・保護者宛のプリントなどで説明を受けたら」、「今後、あなたの子どもがトラブルに遭ったら」が多い。
- 実際のトラブルに遭遇することがきっかけの上位となるのはスマートフォンと同じだが、外生的要因である端末配布時の説明がきっかけとして最多なのは特徴的である。端末配布時の啓発は効果が高いと考えられるため、学校は積極的に実施すべきだろう。「端末配布時以外に、学校の保護者会・PTAの会合・講演会などで説明を受けたら」よりもはるかに割合が高いことも注目すべき点である。



図表4.5 何があればペアレンタルコントロールに関心を持つと思うか

家庭内でのペアレンタルコントロールをしている理由・していない理由

- 家庭内でのペアレンタルコントロールをしている理由のテキスト分析結果では、大きく3つ明らかになった。1つ目は学校からの呼びかけ、2つ目はトラブルに対する不安、3つ目は保護者としての責任感であり、すべてスマートフォンで実施している理由とも共通している。保護者の漠然とした不安や責任感だけでなく、学校からの呼びかけがペアレンタルコントロールを実施する理由として大きな役割をはたしていることが明らかとなっている（図表4.6）。
- 一方で、家庭内でのペアレンタルコントロールを実施していない理由は大きく2つあるといえる。1つ目は、学校によって配布された端末は学校が管理・指導すべきだという考えである。これは、学校側のプリントの配布による周知などが保護者に届いておらず、保護者の認識が薄いことが原因の1つとも思われる。2つ目は、利用方法がそもそも強く制限されておりペアレンタルコントロールをする必要性を感じていないからである（図表4.7）。



図表4.6 ペアレンタルコントロールを実施している理由のワードクラウド

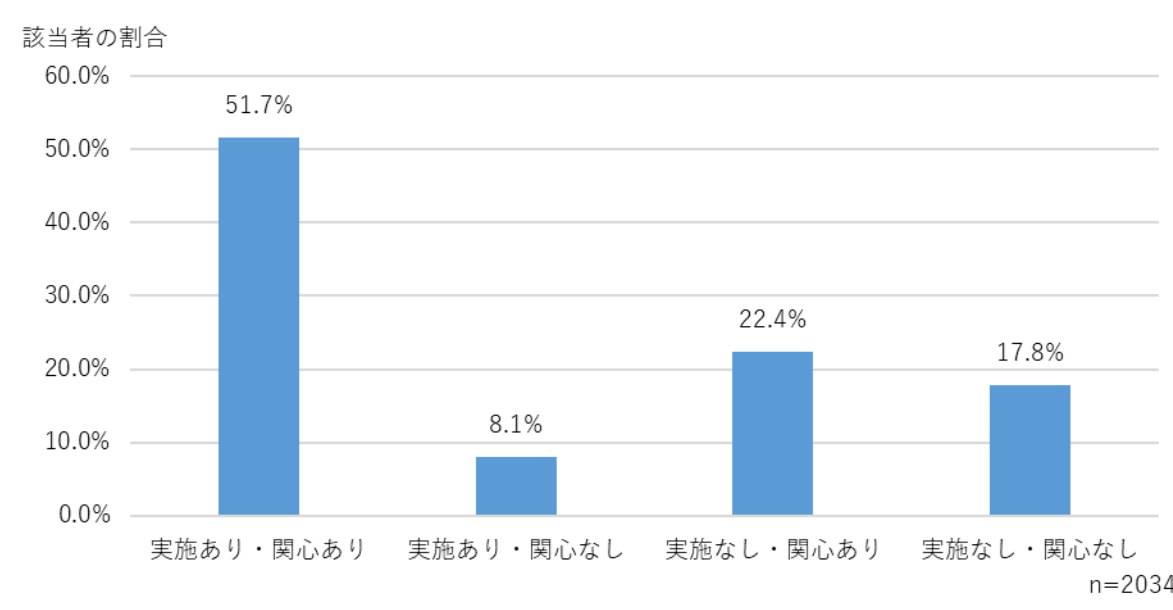


図表4.7 ペアレンタルコントロールを実施していない理由のワードクラウド

* 実際の分析に当たっては、共起ネットワークの作成及びサンバーストチャートによる共起単語の結びつきの可視化も行った。

保護者の4分類

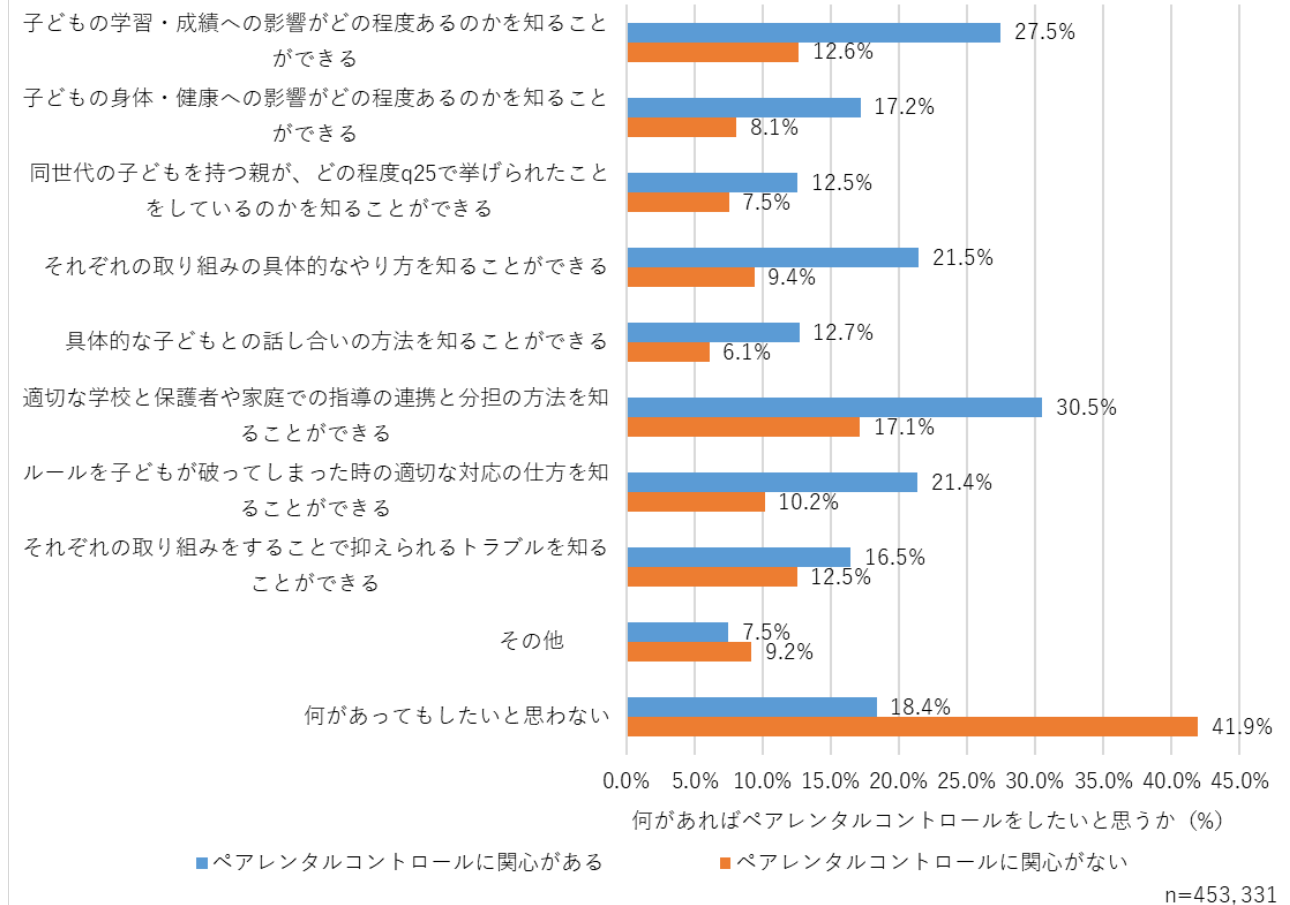
- 家庭内でのペアレンタルコントロールの実施・関心別に保護者を4分類した。「実施あり」は、少なくとも1つ以上のペアレンタルコントロールを実施しており、「関心あり」はフィルタリングサービスか家庭内ルールのどちらか1つ以上に「やや関心あり」以上であったことを示している。
- スマートフォンでは12.5%であった実施なし・関心ありが22.4%、スマートフォンでは9.9%であった実施なし関心なしが17.8%と、スマートフォンより実施していない保護者の割合が高くなっている。



図表4.8 保護者の4分類

何があれば家庭内でのペアレンタルコントロールをしたいと思うか

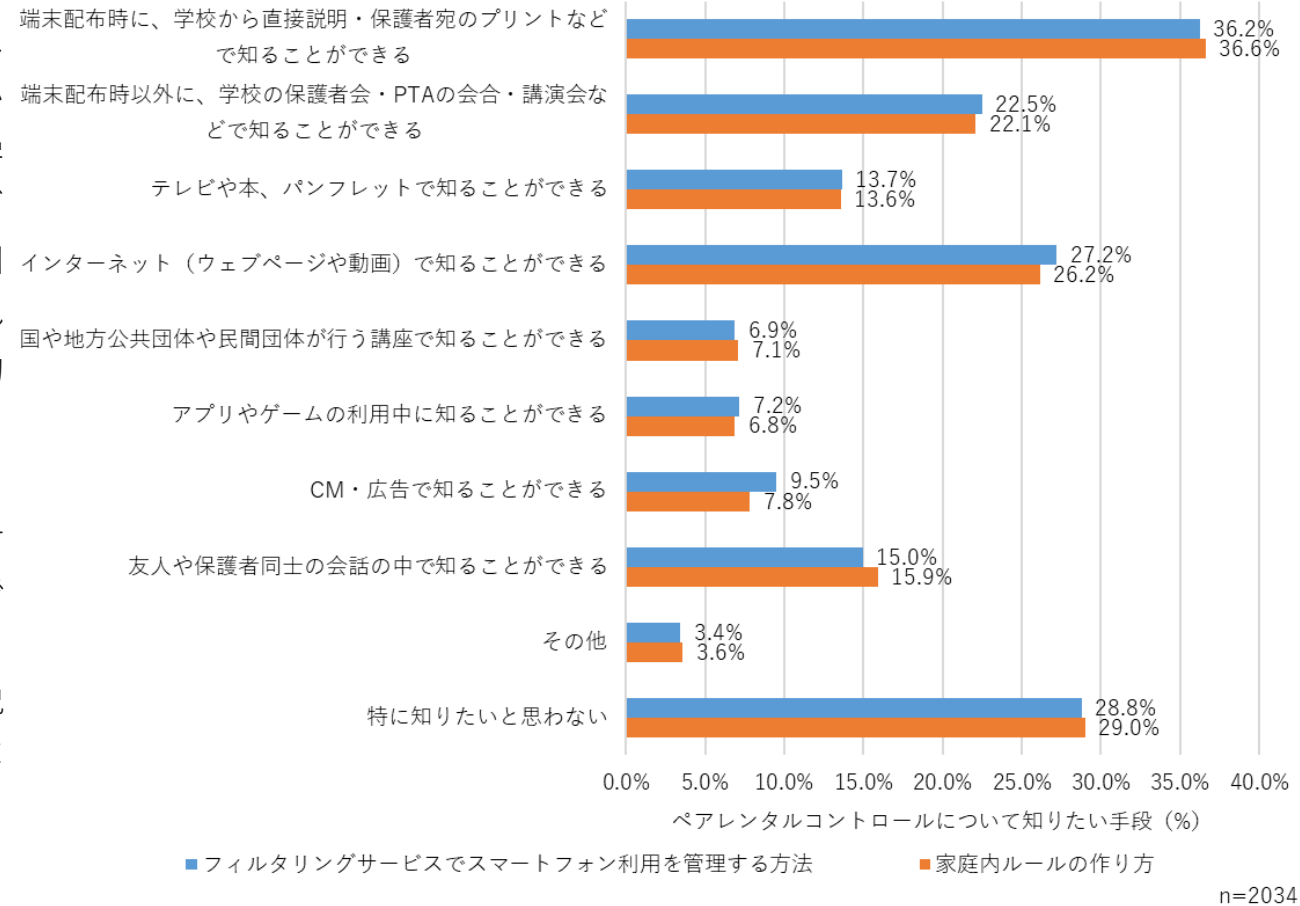
- 何があれば家庭内でのペアレンタルコントロールをしたいと思うかを関心別に見ると、関心がないと回答した保護者の中では「何があってもしたいと思わない」が41.9%と高くなる。しかし逆にいえば、50%以上の人は、現在関心がなくてもきっかけさえあればペアレンタルコントロールを行うといえる。
- その他の相対的な傾向は、関心のあるなしであまり変わらず、「適切な学校と保護者や家庭での指導の連携と分担の方法を知ることができる」、「子どもの学習・成績への影響がどの程度あるのかを知ることができる」、「ルールを子どもが破ってしまった時の適切な対応の仕方を知ることができる」が多い。



図表4.9 何があればペアレンタルコントロールをしたいと思うか
(ペアレンタルコントロール関心別)

どのような手段で家庭内でのペアレンタルコントロールについて知りたいか

- どのような手段で学習用端末の家庭内でのペアレンタルコントロールについて知りたいかを見ると、最も多いのは「端末配布時に、学校からの直接説明・保護者宛のプリントなどで知ることができる」の約36%で、「特に知りたいと思わない」の約29%より多い。これは、「インターネット（ウェブページや動画）で知ることができる」が最多だったスマートフォンとは傾向が異なる。
- 3位には「端末配布時以外に、学校の保護者会・PTAの会合・講演会などで知ることができる」が入っており、学習用端末のペアレンタルコントロールについては、学校からの説明に強く期待していることがわかる。これは関心を持つと思われるきっかけとも酷似している。



図表4.10 どのような手段で学習用端末のペアレンタルコントロールについて知りたいか

どのような手段で家庭内でのペアレンタルコントロールについて知りたいか

- 家庭内でのペアレンタルコントロールについて知りたい手段を保護者4分類別に見ると、はっきりと傾向が見られる。まず、関心がない保護者は「特に知りたいと思わない」が特に高くなっている。また、実施あり・関心なしの人は、「端末配布時以外に、学校の保護者会・PTAの会合・講演会などで知ることができる」へのニーズが低い。おそらく既に外生的な要因でペアレンタルコントロールを導入しているからだろう（図表4.11・4.12）。
- さらに、いずれの分類の保護者も「端末配布時に、学校から直接説明・保護者宛のプリントなどで知ることができる」の割合は高い。とりわけ実施していない人、関心のない人への啓発としては、配布時の説明が非常に効果的だといえる。
- 一方で、実施なし・関心なしでは、自分で調べる必要のある「インターネット（ウェブページや動画）で知ることができる」の数字はかなり低い。能動的にたどり着けるようにするより、学校からの直接説明や保護者宛のプリントによる受動的な啓発が効果的といえるだろう。

図表4.11 フィルタリングサービスについて知りたい手段（保護者4分類別）

フィルタリングサービスについて何で知りたいか	実施あり		実施なし	
	関心あり	関心なし	関心あり	関心なし
端末配布時に、学校から直接説明・保護者宛のプリントなどで知ることができる	38.3%	29.7%	38.1%	30.9%
端末配布時以外に、学校の保護者会・PTAの会合・講演会などで知ることができる	27.5%	12.9%	22.6%	12.1%
テレビや本、パンフレットで知ることができる	19.0%	8.7%	10.0%	5.2%
インターネット（ウェブページや動画）で知ることができる	37.2%	15.1%	22.2%	10.0%
国や地方公共団体や民間団体が行う講座で知ることができる	10.7%	4.3%	3.2%	1.6%
アプリやゲームの利用中に知ることができる	10.8%	4.2%	4.0%	2.0%
CM・広告で知ることができる	14.2%	7.5%	5.0%	2.2%
友人や保護者同士の会話の中で知ることができる	20.4%	10.1%	12.1%	5.2%
その他	4.2%	2.3%	2.4%	2.8%
特に知りたいと思わない	17.5%	49.2%	31.0%	49.8%

n=1079, 171, 453, 331

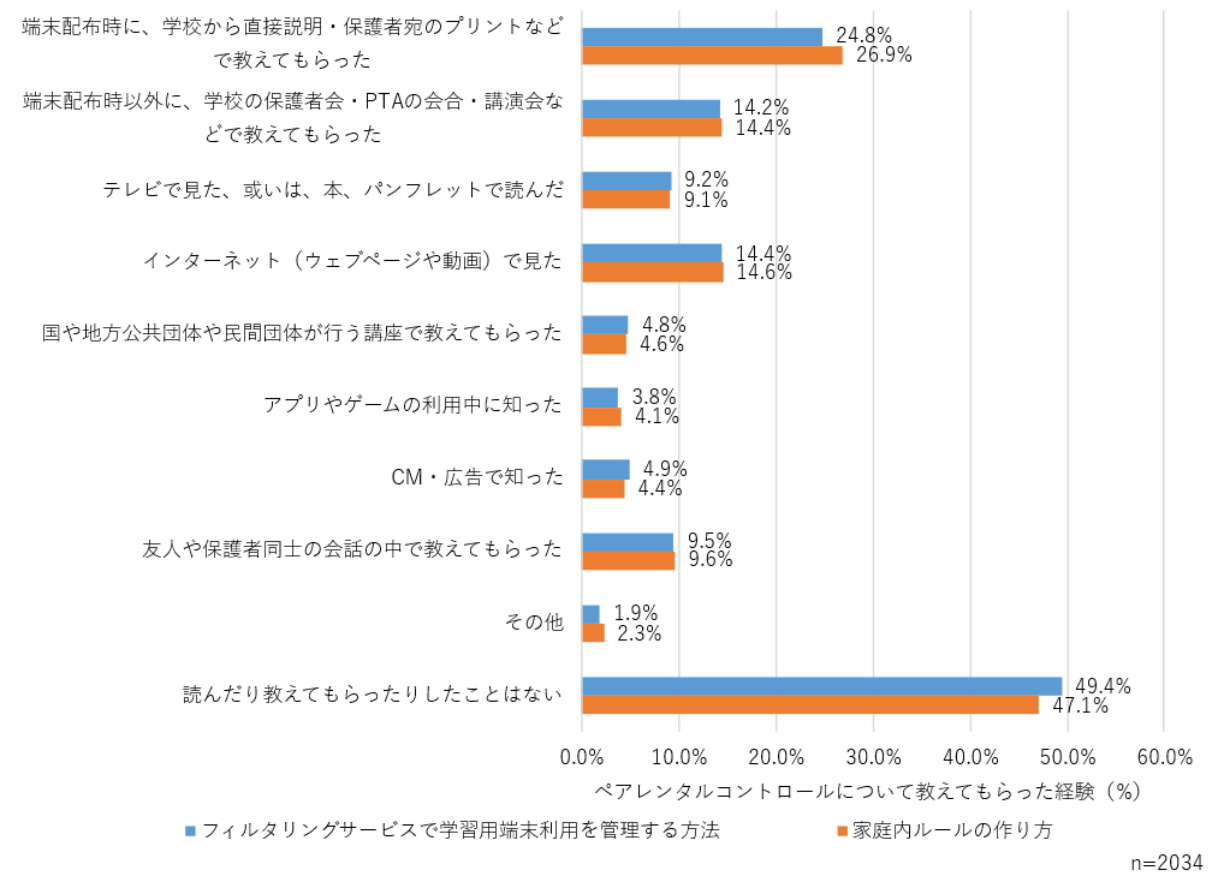
図表4.12 家庭内ルールについて知りたい手段（保護者4分類別）

家庭内ルールについて何で知りたいか	実施あり		実施なし	
	関心あり	関心なし	関心あり	関心なし
端末配布時に、学校から直接説明・保護者宛のプリントなどで知ることができる	39.4%	28.4%	37.0%	32.0%
端末配布時以外に、学校の保護者会・PTAの会合・講演会などで知ることができる	26.0%	12.0%	23.5%	13.6%
テレビや本、パンフレットで知ることができる	19.2%	8.0%	9.7%	4.9%
インターネット（ウェブページや動画）で知ることができる	36.4%	12.3%	20.6%	9.7%
国や地方公共団体や民間団体が行う講座で知ることができる	11.0%	3.2%	3.4%	2.1%
アプリやゲームの利用中に知ることができる	11.0%	3.3%	3.0%	1.1%
CM・広告で知ることができる	11.7%	5.5%	3.3%	3.2%
友人や保護者同士の会話の中で知ることができる	21.4%	11.3%	12.6%	6.2%
その他	4.5%	1.9%	2.4%	3.0%
特に知りたいと思わない	18.1%	49.3%	30.6%	49.4%

n=1079, 171, 453, 331

家庭内でのペアレンタルコントロールについて教えてもらった経験

- 家庭内でのペアレンタルコントロールについて教えてもらった経験では、「読んだり教えてもらったりしたことはない」がフィルタリングサービス（49.4%）と家庭内ルール（47.1%）で共に最多となった。
- 「端末配布時に、学校から直接説明・保護者宛のプリントなどで教えてもらった」ですら約25%しかなく、端末配布時の学校からの説明をより充実させることが期待される。
- スマートフォンの同調査と比較して「インターネット（ウェブページや動画）で見た」が少ないこともわかる。インターネット上にそもそも学習用端末の家庭内でのペアレンタルコントロールに関するコンテンツが少ない可能性がある。



図表4.13 ペアレンタルコントロールについて教えてもらった経験

家庭内でのペアレンタルコントロールについて教えてもらった経験

- 保護者4分類別には、家庭内でのペアレンタルコントロール実施あり・関心ありでは「インターネット（ウェブページや動画）で見た」が高い一方で、それ以外では同項目は極端に低い（図表4.14・図表4.15）。インターネットは能動的に情報を取得するツールであるため、意欲的に実施あり・関心ありの保護者以外はインターネットで詳細に調べていないと予想される。
- スマートフォンについての同調査では、実施なしや関心なしでもインターネットを情報源としている保護者の割合は相対的に高かった。特に学習用端末についてはインターネット上にコンテンツが少なく、よく調べないと家庭内でのペアレンタルコントロールについて学ぶことができないため、実施あり・関心ありの保護者以外は極端に低くなったと考えられる。

図表4.14 フィルタリングサービスについて教えてもらった経験（保護者4分類別）

フィルタリングサービスについて何で教えてもらったか	実施あり		実施なし	
	関心あり	関心なし	関心あり	関心なし
端末配布時に、学校から直接説明・保護者宛のプリントなどで教えてもらった	32.5%	16.7%	21.6%	10.2%
端末配布時以外に、学校の保護者会・PTAの会合・講演会などで教えてもらった	19.6%	10.4%	12.0%	3.0%
テレビで見た、或いは、本、パンフレットで読んだ	14.7%	4.0%	4.0%	2.0%
インターネット（ウェブページや動画）で見た	22.9%	5.6%	8.5%	1.3%
国や地方公共団体や民間団体が行う講座で教えてもらった	8.2%	3.2%	1.3%	0.3%
アプリやゲームの利用中に知った	6.6%	2.7%	0.7%	0.1%
CM・広告で知った	8.3%	2.4%	1.5%	0.8%
友人や保護者同士の会話の中で教えてもらった	15.8%	2.8%	4.7%	0.5%
その他	2.7%	1.0%	1.4%	0.8%
読んだり教えてもらったりしたことはない	31.4%	63.5%	58.7%	83.7%

n=1079, 171, 453, 331

図表4.15 家庭内ルールについて教えてもらった経験（保護者4分類別）

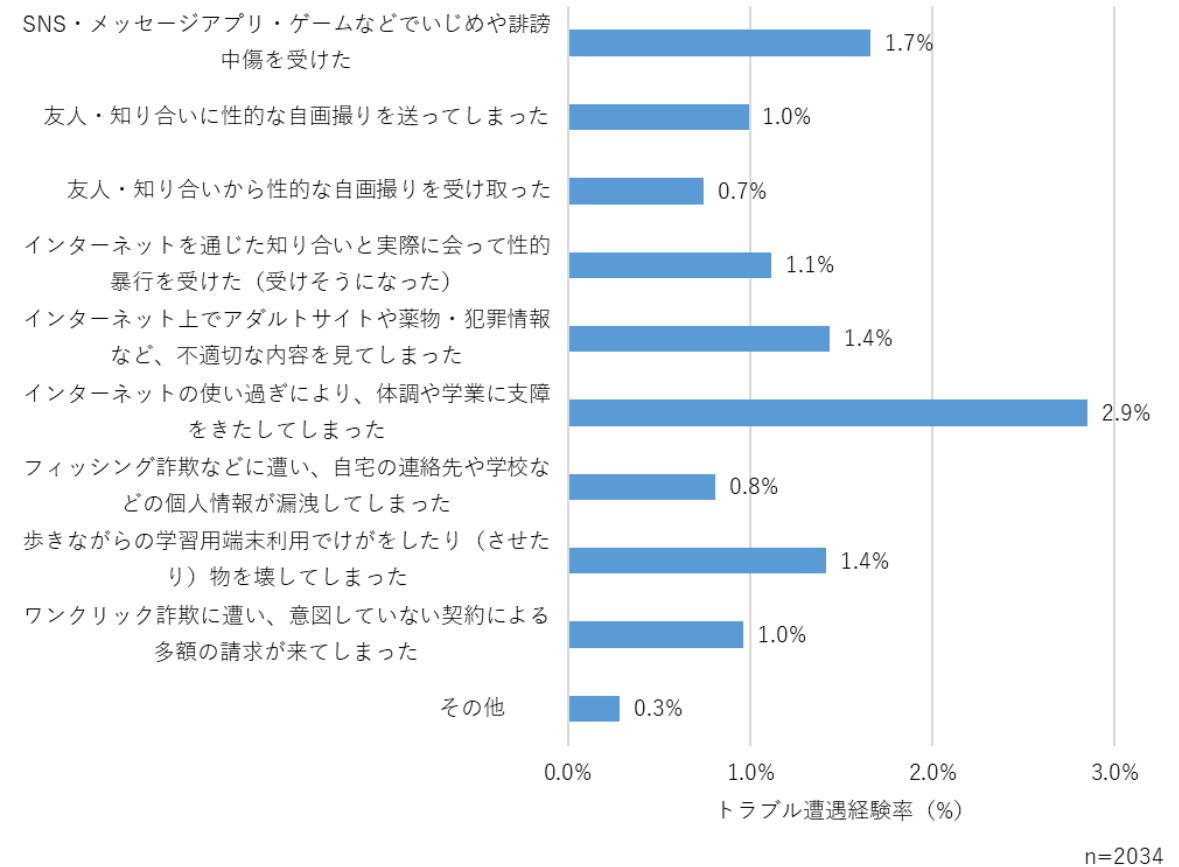
家庭内ルールについて何で教えてもらったか	実施あり		実施なし	
	関心あり	関心なし	関心あり	関心なし
端末配布時に、学校から直接説明・保護者宛のプリントなどで教えてもらった	34.2%	19.2%	23.8%	13.0%
端末配布時以外に、学校の保護者会・PTAの会合・講演会などで教えてもらった	18.7%	12.8%	12.6%	4.9%
テレビで見た、或いは、本、パンフレットで読んだ	14.4%	4.5%	3.4%	3.1%
インターネット（ウェブページや動画）で見た	23.3%	5.4%	8.0%	1.5%
国や地方公共団体や民間団体が行う講座で教えてもらった	7.9%	2.3%	0.8%	1.0%
アプリやゲームの利用中に知った	7.3%	1.6%	0.3%	1.0%
CM・広告で知った	7.8%	1.2%	1.1%	0.3%
友人や保護者同士の会話の中で教えてもらった	15.9%	3.4%	4.3%	1.0%
その他	3.4%	0.3%	1.4%	0.9%
読んだり教えてもらったりしたことはない	29.4%	61.3%	56.2%	80.4%

n=1079, 171, 453, 331

保護者が認識している青少年の学習用端末でのトラブル遭遇状況

- 保護者が認識している（※）青少年の学習用端末での各種トラブルの遭遇状況を見ると、「インターネットの使い過ぎにより、体調や学業に支障をきたしてしまった」が2.9%と最多で、続いて「SNS・メッセージアプリ・ゲームなどでいじめや誹謗中傷を受けた」（1.7%）や「インターネット上でアダルトサイトや薬物・犯罪情報など、不適切な内容を見てしまった」（1.4%）、「歩きながらの学習用端末利用でけがをしたり（させたり）物を壊してしまった」（1.4%）が高い。
- それぞれの割合こそ低いものの、傾向はスマートフォンと全く同じであった。スマートフォンと同じようなトラブルに学習用端末でも遭遇する可能性があることの啓発をより行っていく必要があるだろう。

※ 本調査における学習用端末に関する分析は、青少年保護者が青少年の学習用端末でのトラブル遭遇状況にどういった認識を持っているか基づいて実施しており、実際に発生しているトラブル遭遇状況とは完全に一致しない場合がある。



図表4.16 青少年が遭遇したトラブル

保護者が認識している青少年の学習用端末でのトラブル遭遇状況

- トラブルの遭遇について年齢別に大きな傾向の違いはないが、小学低学年は他の年齢よりもトラブル遭遇経験率が高い傾向にある。例えば、「インターネットの使い過ぎにより、体調や学業に支障をきたしてしまった」が3.7%とトップである。また特徴として、「歩きながらの学習用端末利用でけがをしたり（させたり）物を壊してしまった」が2.4%と多い。
- とりわけ小学校低学年では、学習用端末の歩き利用の危険性を啓発することが必要だろう。

図表4.17 青少年が遭遇したトラブル（年齢別）

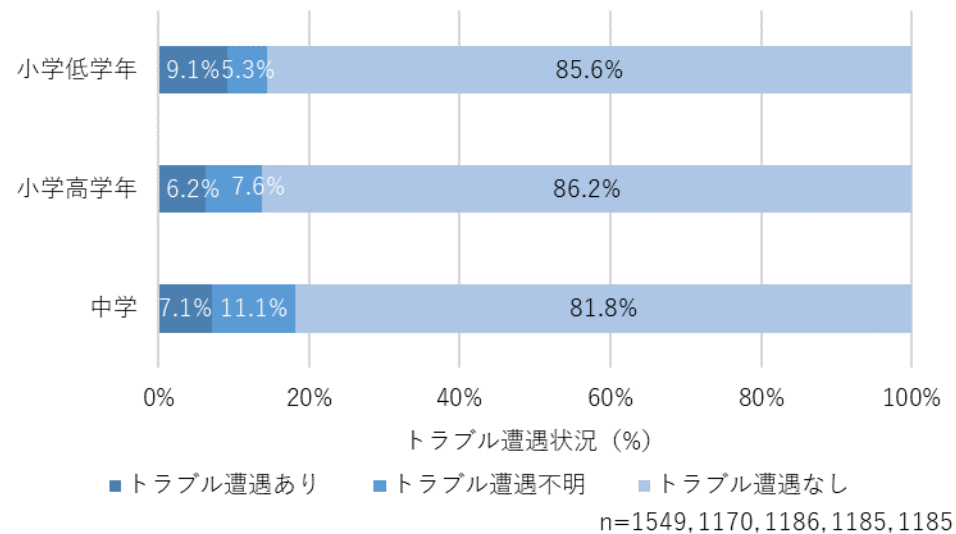
遭遇したトラブル	小学	小学	中学
	低学年	高学年	
SNS・メッセージアプリ・ゲームなどでいじめや誹謗中傷を受けた	1.5%	1.5%	1.8%
友人・知り合いに性的な自画撮りを送ってしまった	1.0%	0.5%	1.3%
友人・知り合いから性的な自画撮りを受け取った	0.3%	0.7%	1.0%
インターネットを通じた知り合いと実際に会って性的暴行を受けた（受けそうになった）	0.9%	1.2%	1.2%
インターネット上でアダルトサイトや薬物・犯罪情報など、不適切な内容を見てしまった	2.0%	1.1%	1.5%
インターネットの使い過ぎにより、体調や学業に支障をきたしてしまった	3.7%	1.8%	3.2%
フィッシング詐欺などに遭い、自宅の連絡先や学校などの個人情報が漏洩してしまった	1.0%	0.9%	0.6%
歩きながらの学習用端末利用でけがをしたり（させたり）物を壊してしまった	2.4%	1.3%	1.1%
ワンクリック詐欺に遭い、意図していない契約による多額の請求が来てしまった	1.7%	1.0%	0.6%
その他	0.2%	0.3%	0.3%

n=684, 744, 606

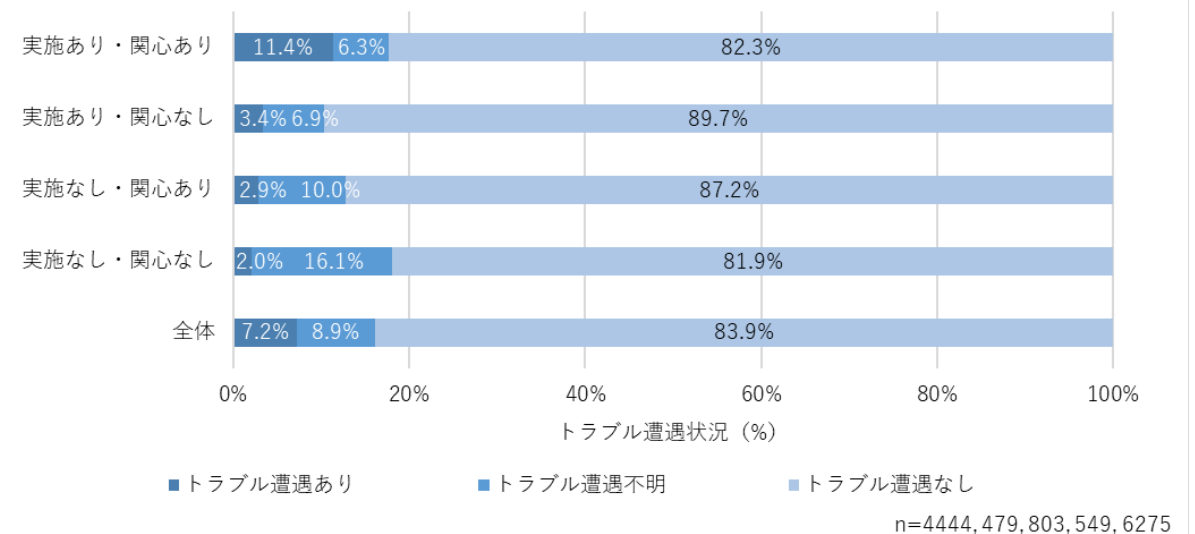
※ 本調査における学習用端末に関する分析は、青少年保護者が青少年の学習用端末でのトラブル遭遇状況にどういった認識を持っているかに基づいて実施しており、実際に発生しているトラブル遭遇状況とは完全に一致しない場合がある。

保護者が認識している青少年の学習用端末でのトラブル遭遇状況

- トラブル遭遇状況を年齢別に見ると、年齢の高い中学生になると「遭っているかわからない」と回答する保護者が増えており、これはスマートフォンの同調査と同じ傾向である（図表4.18）。
- 保護者4分類別に確認しても、基本的にスマートフォンと同じ傾向である。ただし、実施あり・関心なしや、実施なし・関心ありで「遭ったことがない」の割合が高くなっている点はスマートフォンの場合と異なる。これは学習用端末ではトラブルがそもそも発生しないという思い込みから、実は保護者が把握できておらずトラブルがないと考えている可能性があるが、本分析からではこれ以上の考察は不可能である（図表4.19）。



図表4.18 青少年のトラブル遭遇状況（年齢別）



図表4.19 青少年のトラブル遭遇状況（保護者4分類別）

※ 本調査における学習用端末に関する分析は、青少年保護者が青少年の学習用端末でのトラブル遭遇状況にどういった認識を持っているかに基づいて実施しており、実際に発生しているトラブル遭遇状況とは完全に一致しない場合がある。

啓発コンテンツの 実験的調査

5



実験的調査の概要

- 調査時期：2023年3月3日～3月9日
- 調査対象：アンケート調査対象者の中で、スマートフォンあるいは学習用端末においてペアレンタルコントロールを1つも実施していなかった保護者624名。内、スマートフォンにおいてペアレンタルコントロールを1つも実施していない保護者が371名、学習用端末においてペアレンタルコントロールを1つも実施してない保護者が310名。
- 調査方法：対象の保護者に、青少年のスマートフォン利用と学習用端末利用に関する啓発資料（付録参照）を見せ、見たことによって意識がどのように変化したかや、資料による評価を調査する。資料はよく読まれたかを確認するため、クイズを出題し、正解するまで回答できない仕様とした。



図表5.1 啓発コンテンツの一部

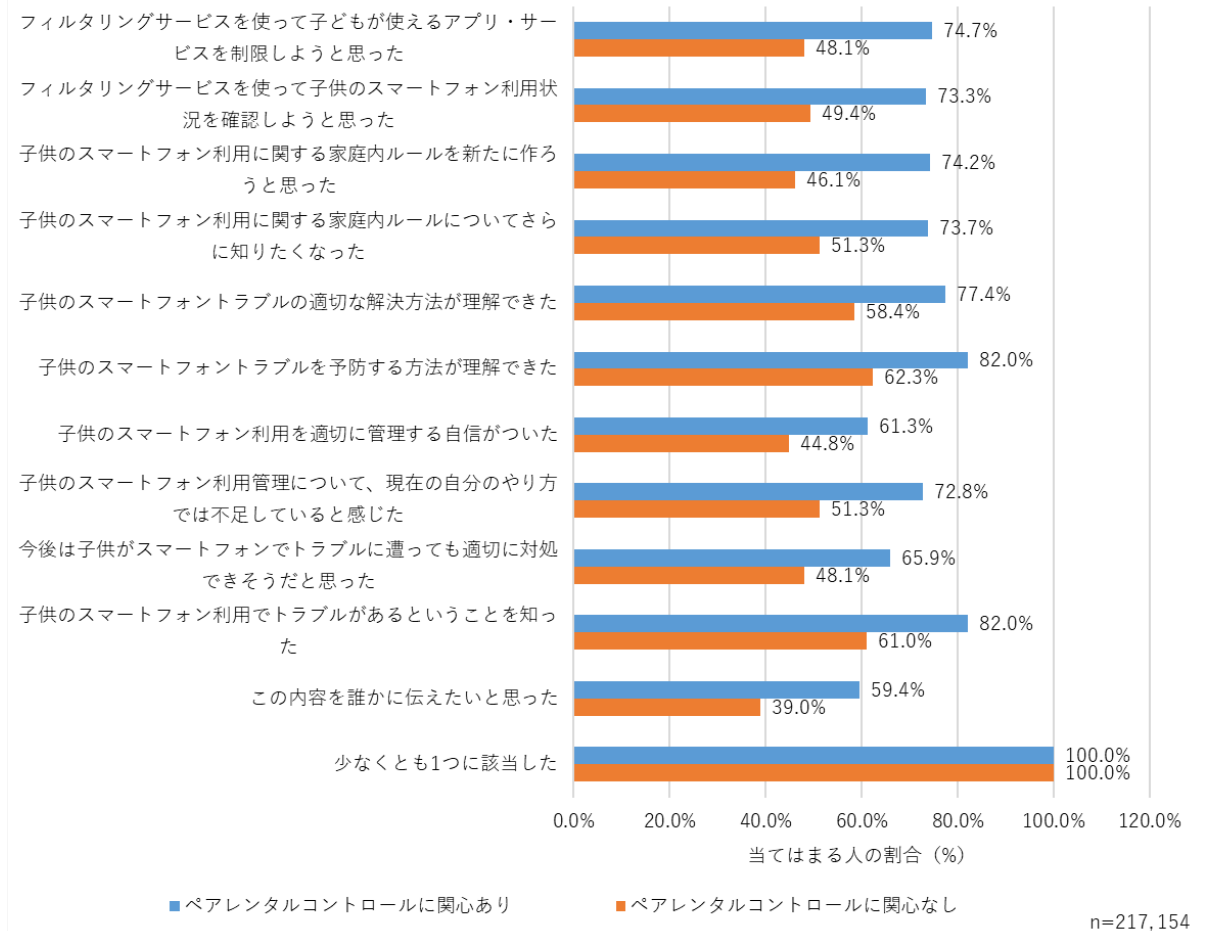
実際のコンテンツ：<https://www.glocom.ac.jp/netrisk/>

図表5.2 サンプルサイズ

年齢	スマートフォンの調査	学習用端末の調査
未就学	105	
小学低学年	63	97
小学高学年	45	90
中学	71	123
高校	87	

コンテンツを見てどう感じたか（スマートフォン）

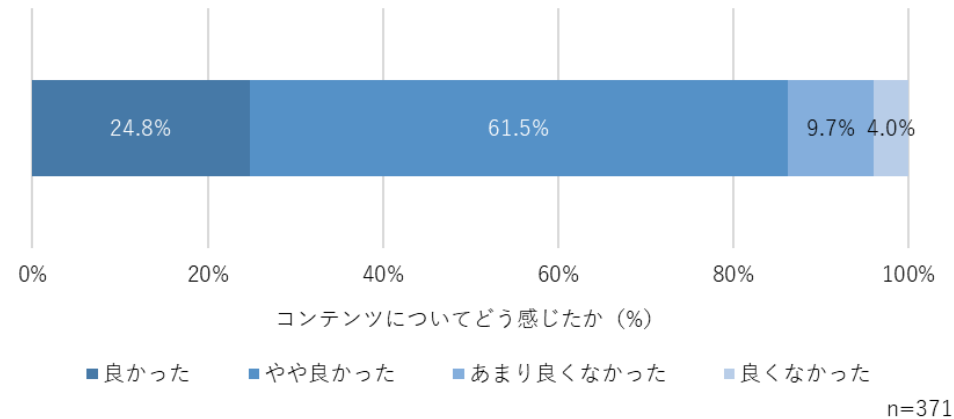
- スマートフォンのペアレンタルコントロールについて、コンテンツを読んでどう感じたかについて、「やや当てはまる」以上の人の割合を、もとのペアレンタルコントロールへの関心別に見たものが図表5.3である。
- 各項目に多くの人々が該当しており、高い効果が見られる。特に「子どものスマートフォントラブルを予防する方法を理解できた」、「子どものスマートフォン利用でトラブルがあるということを知った」、「子どものスマートフォントラブルの適切な解決方法が理解できた」等、青少年トラブルに関する適切な予防・対処方法や、そもそもの危険性を幅広く啓発できた。
- 関心がない人でも5割を超える項目が5項目あり、さらに少なくとも1つに当てはまる人が100%であった。



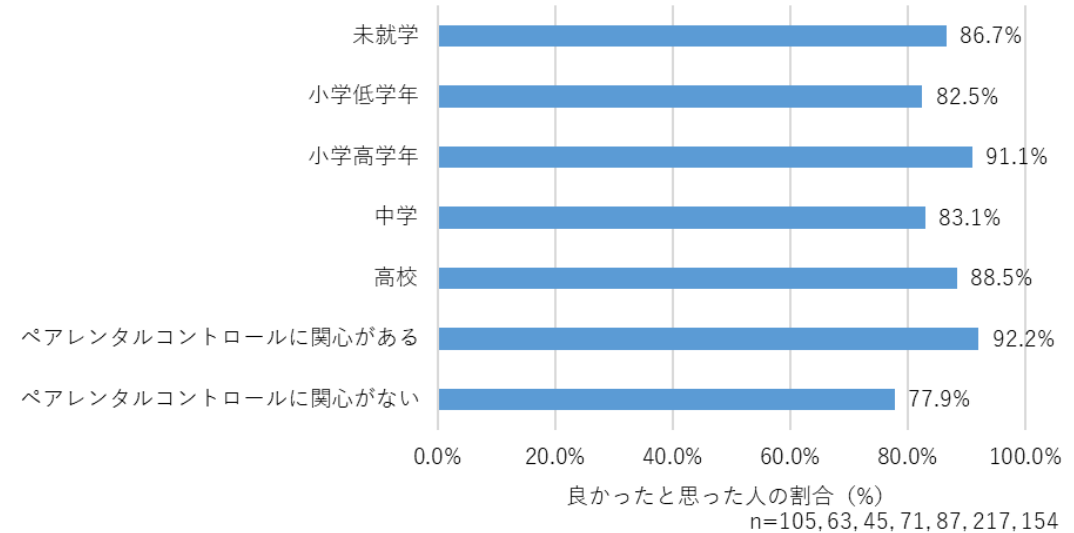
図表5.3 コンテンツを見てどう感じたか（ペアレンタルコントロールへの関心別）

コンテンツへの評価（スマートフォン）

- スマートフォンのペアレンタルコントロールについて、コンテンツへの総合評価としては、「良かった」が24.8%、「やや良かった」が61.5%で、「やや良かった」以上が86.3%と非常に高かった。コンテンツは好評であり、今回のデザイン・仕様・内容は十分に啓発に適しているといえる（図表5.4）。
- 子どもの年齢別、及び、ペアレンタルコントロールへの関心の有無別にみると、「やや良かった」以上を答えた保護者の割合は、子どもの年齢別にあまり違いは見られなかった。ペアレンタルコントロールへの関心別の結果からは、やはり関心のある人からの評価のほうが高いが、関心のない人の77.9%からも「やや良かった」以上の支持をされており、関心のない人への啓発資料としての有効性がここからもうかがえる（図表5.5）。



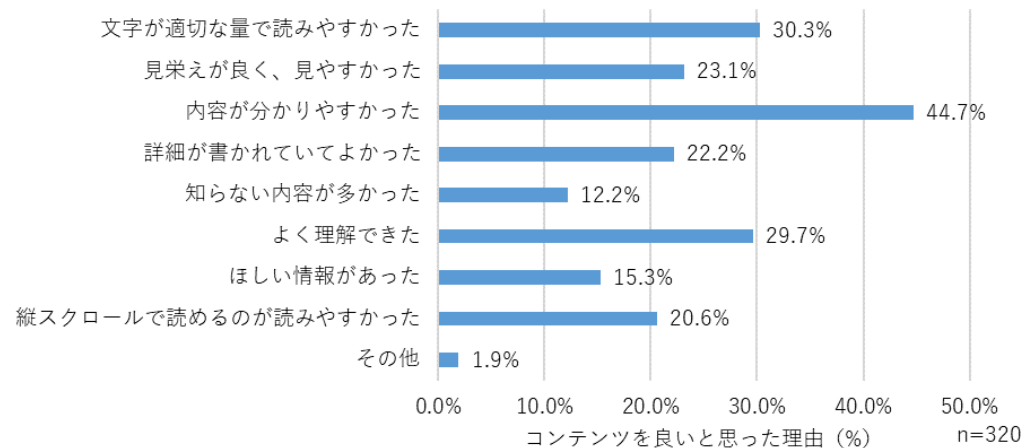
図表5.4 コンテンツへの評価



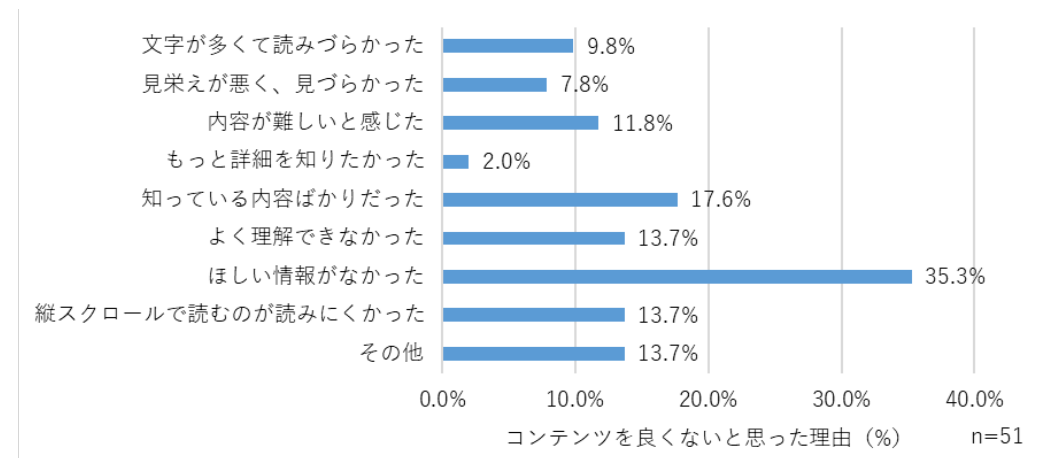
図表5.5 コンテンツへの評価（年齢別・ペアレンタルコントロールへの関心別）

コンテンツへの評価の理由（スマートフォン）

- スマートフォンのペアレンタルコントロールについて、コンテンツを良いと思った理由としては、「内容が分かりやすかった」が44.7%と最多で、次いで「文字が適切な量で読みやすかった」、「よく理解できた」、「見栄えが良く、見やすかったが」であった（図表5.6）。とりわけペアレンタルコントロールを実施していない今回の対象者には、わかりやすさが求められていることがわかり、かつ、本コンテンツがそのニーズを満たしているといえる。
- 良いと思わなかった理由としては、「ほしい情報がなかった」が35.3%と最多で、次いで「知っている内容ばかりだった」であった（図表5.7）。しかし、ペアレンタルコントロールを実施していない保護者の中には、実際には知識のない保護者が多いことも明らかになっている。「知っている」といってペアレンタルコントロールの必要性を取り合わない、やらない人に対しては、コンテンツ以外の方法での啓発も必要な可能性がある。



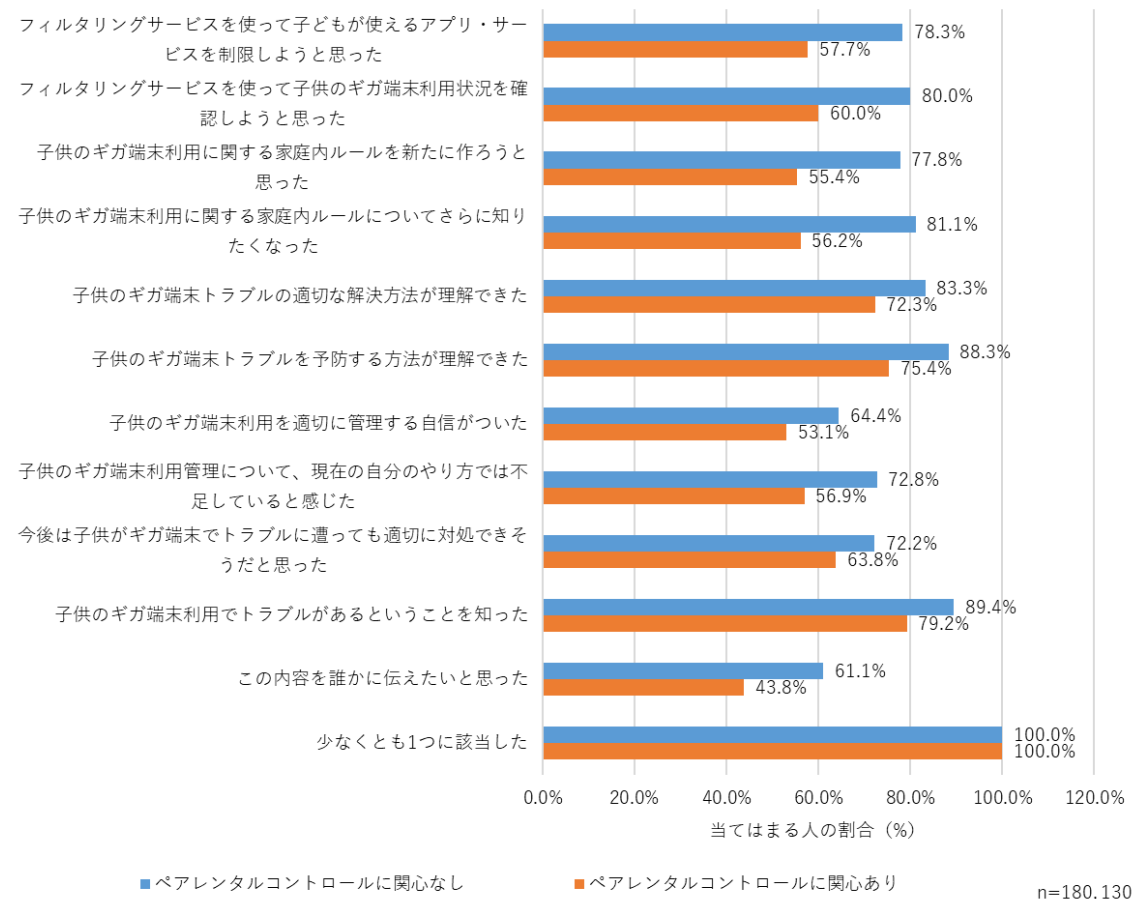
図表5.6 コンテンツが良いと思った理由



図表5.7 コンテンツが良いと思わなかった理由

コンテンツを見てどう感じたか（学習用端末）

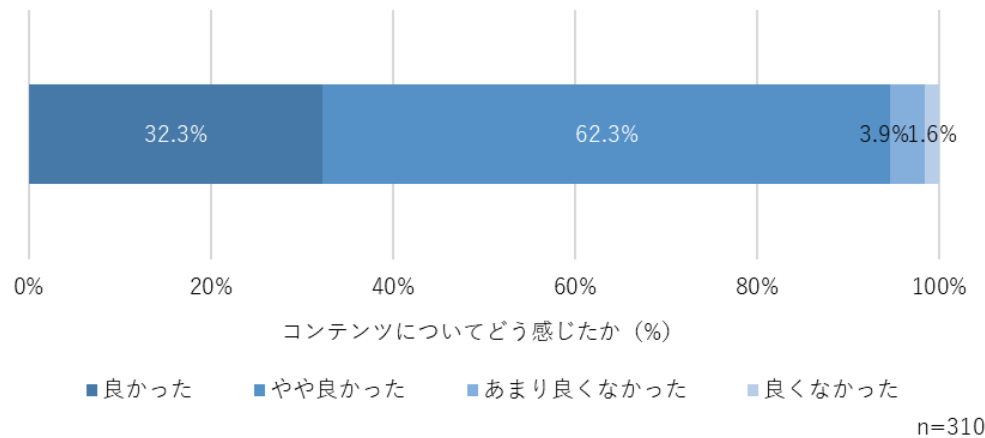
- 学習用端末の家庭内でのペアレンタルコントロールについて、コンテンツを読んでどう感じたかについて、「やや当てはまる」以上の人の割合を、もともとのペアレンタルコントロールへの関心別に見たものが図表5.8である。
- 各項目に多くの人々が該当しており、高い効果が見られる。元々関心のある保護者のほうが反応は良いが、関心のない人も「やや当てはまる」以上を回答した人は多い。具体的には、「この内容を誰かに伝えたいと思った」を除く全項目で、関心のない人でも50%以上が「やや当てはまる」以上と回答した。
- 全体でも、少なくとも1つ以上「やや当てはまる」以上を回答した保護者が100%となっており、極めて高い啓発効果が見られた。



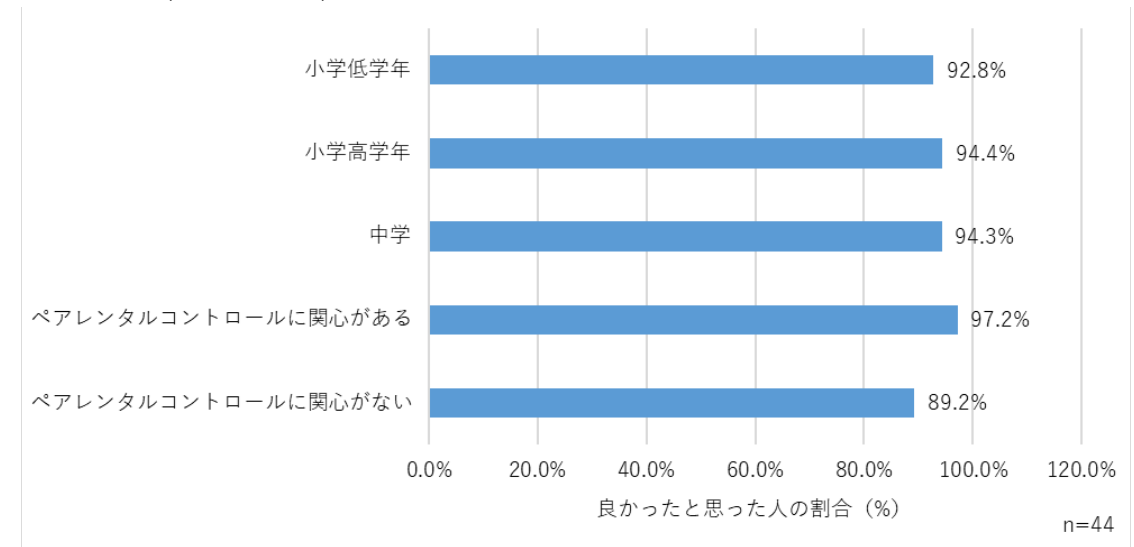
図表5.8 コンテンツを見てどう感じたか（ペアレンタルコントロールへの関心別）

コンテンツへの評価（学習用端末）

- 学習用端末の家庭内でのペアレンタルコントロールについて、コンテンツへの総合評価としては、「良かった」が32.3%、「やや良かった」が62.3%で、「やや良かった」以上が94.6%と非常に高かった（図表5.9）。スマートフォンの同コンテンツ以上にコンテンツは好評であり、今回のデザイン・仕様・内容は十分に啓発に適しているといえる。
- 子供の年齢別、及び、ペアレンタルコントロールへの関心の有無別にみると、「やや良かった」以上を答えた保護者の割合は、子供の年齢別にあまり違いは見られなかった。ペアレンタルコントロールへの関心別の結果からは、やはり関心のある人からの評価のほうが高いが、関心のない人の約90%からも「やや良かった」以上の支持をされており、ペアレンタルコントロールへの関心のない保護者も含めて、極めて高い評価といえる（図表5.10）。



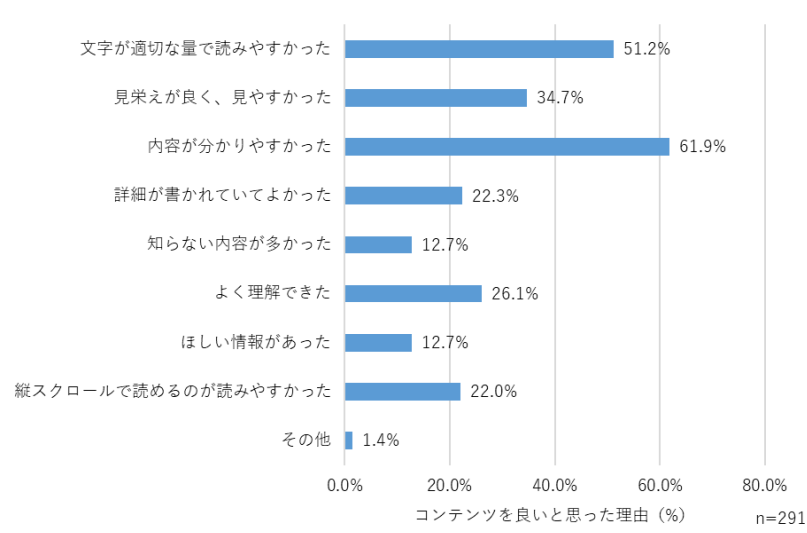
図表5.9 コンテンツへの評価



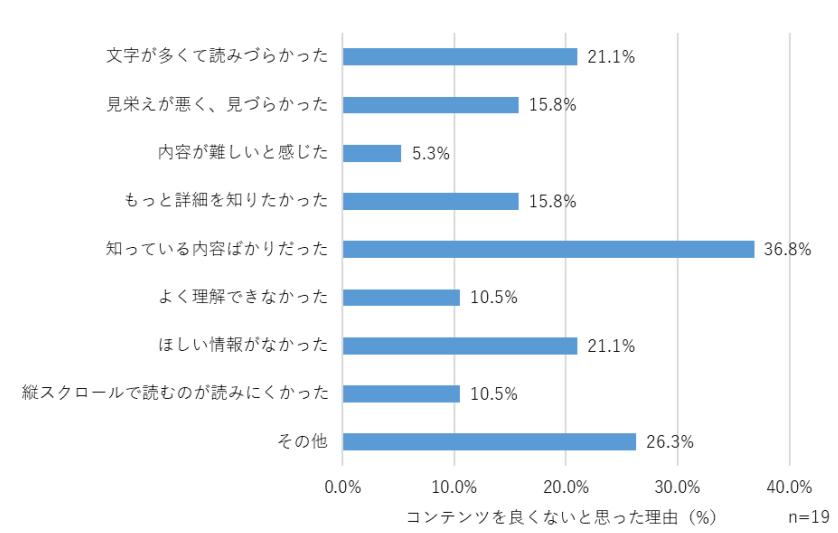
図表5.10 コンテンツへの評価（年齢別・ペアレンタルコントロールへの関心別）

コンテンツへの評価の理由（学習用端末）

- 学習用端末の家庭内でのペアレンタルコントロールについて、コンテンツを良いと思った理由としては、「内容が分かりやすかった」が61.9%と最多であった。次いで「文字が適切な量で読みやすかった」、「見栄えが良く、見やすかった」、「よく理解できた」であった（図表5.11）。スマートフォンのコンテンツ同様、見やすさを評価する声が多かった。
- 良いと思わなかった理由としては、「知っている内容ばかりだった」が36.8%と最多で、「その他」を除くと次いで「ほしい情報がなかった」「文字が多くて読みづらかった」であった（図表5.12）。こちらもスマートフォン同様、知っているから知らないという見解の保護者が多いことから、「知っている」といってペアレンタルコントロールの必要性を取り合わない、やらない人に対しては、コンテンツ以外の方法での啓発も必要な可能性がある。



図表5.11 コンテンツが良いと思った理由



図表5.12 コンテンツが良いと思わなかった理由

保護者インタビュー調査

6



保護者インタビュー調査概要

- 調査時期：2022年11月29日～2023年1月15日
- 調査対象：調査会社（5,000名）及び機縁法を通じて抽出された保護者21名。
- 調査方法：オンライン（zoom）による個別インタビュー。1回あたり1時間～1時間30分程度。
- 調査目的：ペアレンタルコントロールの関心・実施の有無の理由を把握すること。また「スマートフォン」ならびに「学習用端末」利用に関して、その利用状況やトラブル有無、その他の経験などの要素を抽出すること。

図表6.1 主要なヒアリング項目

青少年とICT	ペアレンタルコントロール状況（スマートフォン・学習用端末）	求める情報と伝達手段	リスク・トラブル経験
1 現在の利用ICT 2 利用開始時期 3 主な用途 4 主な利用アプリ 5 利用量	1 設定状況（ソフト） 2 設定状況（ハード） 3 設定背景、プロセス 4 参考にした情報	1 全般的なニーズ 2 関心の創発 3 求める情報 4 求める伝達手段	1 トラブル経験 2 エピソード

図表6.2 保護者インタビュー調査対象

年代	関心の有無および実施の有無	男児	女児
未就学児	「関心はない」かつ「実施していない」	0	0
	「関心はある」が「実施していない」	2	0
	「関心はない」かつ「実施している」	0	0
	「関心はある」かつ「実施している」	4	6
小学校低学年	「関心はない」かつ「実施していない」	0	0
	「関心はある」が「実施していない」	1	1
	「関心はない」かつ「実施している」	0	0
	「関心はある」かつ「実施している」	0	0
小学校高学年	「関心はない」かつ「実施していない」	0	1
	「関心はある」が「実施していない」	0	0
	「関心はない」かつ「実施している」	0	0
	「関心はある」かつ「実施している」	1	0
中学生	「関心はない」かつ「実施していない」	0	1
	「関心はある」が「実施していない」	1	0
	「関心はない」かつ「実施している」	0	0
	「関心はある」かつ「実施している」	0	0
高校生	「関心はない」かつ「実施していない」	2	1
	「関心はある」が「実施していない」	0	0
	「関心はない」かつ「実施している」	0	0
	「関心はある」かつ「実施している」	0	0

ペアレンタルコントロールの「実施の検討要因」と「ニーズ」

- ペアレンタルコントロールへの関心の有無を分ける要因のひとつに、子どもの利用状況が影響を与えている。そのうえで、ペアレンタルコントロールへの実施の検討に影響を与え得る要因は、現状のペアレンタルコントロールが効かなくなるタイミング、すなわち端末の変化、利用の変化、トラブル事例の見聞きであることが示唆された。
- 実施には機種とルールの設定に関する情報が求められる。コンテンツとして家庭の方針や子どもに即してパーソナライズされたルール・機種設定、そして、社会的に許容される基本的なルール・機種設定を説明するコンテンツが求められる。

図表6.3 主要なヒアリング項目

実施の検討に影響を与え得る要因	コンテンツ例	伝達方法
【端末の変化】 専用端末を使う	<ul style="list-style-type: none"> ・最低限設定すべき基本設定 ・学年に応じた推奨設定 	講習 アプリ
【利用の変化の例】 使う機能や使う時間が増える 現在の約束を守れなくなる 保護者が見せたくないコンテンツを見る SNSを利用し、他人とつながる可能性が出る	<ul style="list-style-type: none"> ・端末の機能設定方法 ・家庭の教育方針、子どもの性格に合ったルール・設定事例集 ・学年に応じた基本設定 ・スマートフォン利用による脳や発達への影響のエビデンス ・医学・心理学・IT・教育学的観点それぞれからのアドバイス 	FAQサイト アプリ テレビ番組特集 専門家に気軽に聞ける場
【トラブル事例を見聞きする】 身近でトラブルがある 実際にトラブルを経験する（課金・誤動作・人とのつながりなど）	【親向け】 <ul style="list-style-type: none"> ・子どもへの注意の仕方について教えるもの ・危機があったときの基本的対処方法 【子ども向け】 <ul style="list-style-type: none"> ・具体的なトラブル事例 ・インターネットから身を守る必要性を認識できる内容 	映像コンテンツ CM ネットニュース・ ブログ記事

保護者インタビューから得られたストーリーとニーズ

ペアレンタル
コントロール
実施検討意欲

未就学児

小学校低学年

小学校高学年

中学生・高校生

と青少年
10代

【ストーリー1】親の目を意識させることが抑止力になる。年齢が低いときはリビングで親が音や見ている様子を見て、時間やコンテンツ管理をする。共有スマホは「借りている」意識を持てるメリットも。成長してからも、課金は親の承諾制とする。

ペア
レン
タル
コ
ン
ト
ロ
ール
状
況

【ストーリー2】早くから利用を習慣化する。専用のスマホを与える
とアプリを限定し、リスクを減らして使わせることが出来る。

【ストーリー4】中高生の場合、利用をイメージできないま
まに購入し、コントロールのタイミングを逸してしまう。保
護者自身がコントロールを抑制。

【ストーリー3】教育の一環として使う。時計を覚えて自分で時間管
理をする例も。学習用アプリも短時間利用に有効。

【ストーリー5】ペアレンタルコントロールは親の責任。ただ、基本的な方針や明らかに間違っ
た使い方などの指針は欲しい。

【ストーリー6】学習用端末ではペアレンタルコントロールを全く行っていない。子どもも家
でほぼ使っていない。アプリDL禁止としている学校もあるが設定や管理について学校からの通知
もないことも。親は使い方をほとんど関知していない。

求
め
る
情
報
と
伝
達
手
段

【ストーリー7】身近な人からの情報を参考にしてルール・機能設定のカスタマイズを行う。

【ストーリー8】全く情報を入手せず日頃の使い方から家庭独自でルール化する。独自のルールの
ため、カスタマイズした設定・ルールが正しいか不安。何が正しくて何が良いのかという基本
が分からない。

経
験
ト
ラ
ス
ブ
ク
ル・

【ストーリー9】子どもにトラブル、困りごとの認識が薄い。トラブルが起こる前
に子どもがリスクを認識できるようにしたい。

【ストーリー10】子ども本人が危ない体験を体験すると、同じ
間違いをしないように学べるようになる。

保護者インタビューから得られたストーリーとニーズ

未就学児

小学校低学年

小学校高学年

中学生・高校生

機種・ルールの設定

【ニーズ1】 家庭や子どもに合った設定をするための、基本的に設定すべき機能やルールのガイドラインが欲しい。

No6 (男児・未就学児・関心ある／実施している)

基本手探りなので、手探りであったとしても何かしらのやっぱ指標みたいなものですね。ここら辺までだったら健康面においてもそんな問題ないよとか。あとはリスクも含めて、リスクとデメリット、メリット分かるような、分かりやすいガイドラインみたいのがあればありがたい。手探りなので本当に正しいのかなっていう疑問符は付くっていかたちです。分からない。



【ニーズ2】 スマートフォンのメリット・デメリットを教育面・IT面・心理面で把握したい。エビデンスを知りたい。

統計とかデータとか周りかどのぐらい使ってて、どういうものを見せると良くて、例えばこれぐらい見せると目が悪くなるから注意とか、こういう影響があるからこういう動画は見せないほうがいいみたいな、細かい内容が知れたらいいなと思います。



No8 (女児・未就学・関心ある／実施している)

【ニーズ3】 未就学児に特化した情報を知りたい。

【ニーズ4】 子どもに知られずに使い方や行動を管理したい。



保育園では端末やSNSを使ったような授業はやっていないので、小学生への授業環境を踏まえた注意点は、ちょっと使えないかなとは思いました。

No9 (女児・未就学・関心ある／実施している)

今フェイク動画みたいなのとか、作られたサイトの見極めが本当に大人でも難しいんで、そういったことを親がコントロールするというよりも、セキュリティー的なものを入れるとか、そういうことで補えればなとは思んですけど。

No19 (男児・高校生・関心ない／実施していない)



【ニーズ5】 親自身のリテラシーを高めたい。ペアレンタルコントロールや機種・ルールの設定等の経験がなく知識を持っていないという思いも強い。

親が対処できるような知識と対処法等を付けておくことは、大事なのかなと思っているので、基本的なそういう知識を追っていきたい。



No20 (男児・高校生・関心ない／実施していない)

トラブルへの対応

【ニーズ6】 ニュースにならないような身近なトラブル事例を知りたい。具体的な身近な事例のほうが理解しやすく、関心・危機感を持ちやすい。

よくスマホの使いすぎが発達によくないとか、コミュニケーション不足になるというのを聞くんですけど、実際にどんなことがあったのかっていうのが詳しく知れば私も本人も納得できると思う。具体的な説明とかがないので、詳しく説明がほしいっていうのがありますね。

No9 (女児・未就学児・関心ある／実施している)



親が来ないリスクへの対策

【ニーズ7】 機種やルールでの設定が難しいリスクへの対応を行いたい。公式アプリやゲームでもウイルス感染等の危険性がある。

コンテンツや課金よりウイルス感染とマルウェア感染と特殊詐欺の引っ掛かりのほうを何とか防ぎたくてペアレンタルしたい。



No2 (男児・未就学児・関心ある／実施していない)

【委託先】 学校法人国際大学



調査研究報告書執筆担当

- 山口 真一 国際大学GLOCOM 准教授・主幹研究員
- 青木 志保子 国際大学GLOCOM 主任研究員
- 井上 絵理 国際大学GLOCOM 客員研究員
- 大島 英隆 国際大学GLOCOM 客員研究員
- 田邊 新之助 国際大学GLOCOM リサーチアシスタント

調査研究プロジェクトメンバー

- 山口 真一 国際大学GLOCOM 准教授・主幹研究員
- 青木 志保子 国際大学GLOCOM 主任研究員
- 井上 絵理 国際大学GLOCOM 客員研究員
- 大島 英隆 国際大学GLOCOM 客員研究員
- 田邊 新之助 国際大学GLOCOM リサーチアシスタント
- 小木曾 健 国際大学GLOCOM 客員研究員

有識者会議委員

- 小木曾 健 国際大学GLOCOM 客員研究員
- 尾花 紀子 ネット教育アナリスト
- 鈴木 朋子 ITライター・スマホ安全アドバイザー
- 曾我部 真裕 京都大学大学院法学研究科 教授
- 田中 辰雄 慶應義塾大学経済学部 教授
- 米田 謙三 関西学院千里国際中等部・高等部教諭
- 松岡 英治 安心ネットづくり促進協議会 部長

※メンバーの所属・肩書は2023年3月時点のものを記載。